

【表紙】

【提出書類】	有価証券届出書
【提出先】	関東財務局長殿
【提出日】	2020年2月18日提出
【発行者名】	いちよしアセットマネジメント株式会社
【代表者の役職氏名】	取締役社長 藤津 史朗
【本店の所在の場所】	東京都中央区八丁堀二丁目2 3 番 1 号
【事務連絡者氏名】	萩谷 洋昭
【電話番号】	03-6670-6711
【届出の対象とした募集（売出）内国投資 信託受益証券に係るファンドの名称】	いちよしファンドラップ専用投資信託 内外債券
【届出の対象とした募集（売出）内国投資 信託受益証券の金額】	5兆円を上限とします。
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

第一部【証券情報】

（１）【ファンドの名称】

いちよしファンドラップ専用投資信託 内外債券（以下「ファンド」といいます。）

（２）【内国投資信託受益証券の形態等】

- ・追加型証券投資信託受益権です。（以下「受益権」といいます。）
 - ・信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供された信用格付、または信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供される予定の信用格付はありません。
- ファンドの受益権は、社債、株式等の振替に関する法律の規定の適用を受け、受益権の帰属は、後述の「（11）振替機関に関する事項」に記載の振替機関および当該振替機関の下位の口座管理機関（社債、株式等の振替に関する法律第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。）の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります（以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。）。委託会社は、やむを得ない事情などがある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。また、振替受益権には無記名式や記名式の形態はありません。

（３）【発行（売出）価額の総額】

5兆円を上限とします。

（４）【発行（売出）価格】

取得申込受付日の翌々営業日の基準価額とします。

- ・基準価額につきましては、販売会社または「（８）申込取扱場所」の照会先にお問い合わせください。

（５）【申込手数料】

販売会社が定めるものとします。申込手数料率につきましては、販売会社または「（８）申込取扱場所」の照会先にお問い合わせください。

- ・有価証券届出書提出日現在、販売会社における申込手数料はありません。

（６）【申込単位】

販売会社または「（８）申込取扱場所」の照会先にお問い合わせください。

（７）【申込期間】

2020年2月19日から2020年8月18日までとします。

- ・上記期間満了前に有価証券届出書を提出することによって更新されます。

（８）【申込取扱場所】

販売会社につきましては、委託会社の照会先にお問い合わせください。

<委託会社の照会先>

いちよしアセットマネジメント株式会社

電話番号 03-6670-6711

午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

ホームページ アドレス <https://www.ichiyoshiam.jp/>

（９）【払込期日】

- ・取得申込者は、申込金額を販売会社が指定する期日までに販売会社に支払うものとします。
- ・申込期間における各取得申込受付日の発行価額の総額（設定総額）は、販売会社によって、追加設定が行なわれる日に委託会社の指定する口座を経由して、受託会社の指定するファンド口座に払い込まれます。

（ 1 0 ）【払込取扱場所】

申込金額は、販売会社にお支払いいただきます。

（ 1 1 ）【振替機関に関する事項】

振替機関は、株式会社証券保管振替機構とします。

（ 1 2 ）【その他】

ファンドラップ取引口座の開設について

当ファンドは販売会社の提供するファンドラップ口座にかかる投資一任契約に基づいて、同口座の資金を運用するためのファンドです。ファンドの取得申込者は、お申込みを取り扱う販売会社とファンドラップ口座にかかる投資一任契約等を締結し、ファンドラップ取引口座を開設した者に限るものとします。

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

(1)【ファンドの目的及び基本的性格】

ファンドの目的

当ファンドは、複数のファンドに分散投資を行う、ファンド・オブ・ファンズ方式により、信託財産の中長期的な成長を目標に運用を行います。

ファンドの基本的性格

1) 商品分類

単字型投信・追加型投信	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)
単字型投信	国内	株式
	海外	債券
追加型投信	内外	不動産投信
		その他資産 ()
		資産複合

(注) 当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

2) 属性区分

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
株式 一般 大型株 中小型株	年1回	グローバル (含む日本)	ファミリーファンド	あり ()
	年2回	日本		
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性 ()	年4回	北米		
	年6回 (隔月)	欧州		
不動産投信	年12回 (毎月)	アジア	ファンド・オブ・ファンズ	なし
	日々	オセアニア		
その他資産 (投資信託証券(債券一般))	その他 ()	中南米		
		アフリカ		
資産複合 () 資産配分固定型 資産配分変更型		中近東 (中東)		
		エマージング		

(注) 当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

属性区分に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替変動リスクに対するヘッジの有無を記載しております。

当ファンドは、ファンド・オブ・ファンズです。このため、組入れている資産を示す属性区分上の投資対象資産（その他資産（投資信託証券（債券 一般）））と収益の源泉となる資産を示す商品分類上の投資対象資産（債券）とが異なります。

< 商品分類の定義 >

1. 単位型投信・追加型投信の区分

- (1) 単位型投信：当初、募集された資金が一つの単位として信託され、その後の追加設定は一切行われずファンドをいう。
- (2) 追加型投信：一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいう。

2. 投資対象地域による区分

- (1) 国内：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に国内の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (2) 海外：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (3) 内外：目論見書又は投資信託約款において、国内及び海外の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいう。

3. 投資対象資産による区分

- (1) 株式：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (2) 債券：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に債券を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (3) 不動産投信(リート)：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に不動産投資信託の受益証券及び不動産投資法人の投資証券を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (4) その他資産：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に上記(1)から(3)に掲げる資産以外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。なお、その他資産と併記して具体的な収益の源泉となる資産の名称記載も可とする。
- (5) 資産複合：目論見書又は投資信託約款において、上記(1)から(4)に掲げる資産のうち複数の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいう。

4. 独立した区分

- (1) MMF(マネー・マネージメント・ファンド)：「MMF等の運営に関する規則」に定めるMMFをいう。
- (2) MRF(マネー・リザーブ・ファンド)：「MMF等の運営に関する規則」に定めるMRFをいう。
- (3) ETF：投資信託及び投資法人に関する法律施行令（平成12年政令480号）第12条第1号及び第2号に規定する証券投資信託並びに租税特別措置法（昭和32年法律第26号）第9条の4の2に規定する上場証券投資信託をいう。

< 補足として使用する商品分類 >

- (1) インデックス型：目論見書又は投資信託約款において、各種指数に連動する運用成果を目指す旨の記載があるものをいう。
- (2) 特殊型：目論見書又は投資信託約款において、投資者に対して注意を喚起することが必要と思われる特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいう。なお、下記の属性区分で特殊型の小分類において「条件付運用型」に該当する場合には当該小分類を括弧書きで付記するものとし、それ以外の小分類に該当する場合には当該小分類を括弧書きで付記できるものとする。

< 属性区分の定義 >

1. 投資対象資産による属性区分

(1) 株式

一般：次の大型株、中小型株属性にあてはまらない全てのものをいう。

大型株：目論見書又は投資信託約款において、主として大型株に投資する旨の記載があるものをいう。

中小型株：目論見書又は投資信託約款において、主として中小型株に投資する旨の記載があるものをいう。

(2) 債券

一般：次の公債、社債、その他債券属性にあてはまらない全てのものをいう。

公債：目論見書又は投資信託約款において、日本国又は各国の政府の発行する国債(地方債、政府保証債、政府機関債、国際機関債を含む。以下同じ。)に主として投資する旨の記載があるものをいう。

社債：目論見書又は投資信託約款において、企業等が発行する社債に主として投資する旨の記載があるものをいう。

その他債券：目論見書又は投資信託約款において、公債又は社債以外の債券に主として投資する旨の記載があるものをいう。

格付等クレジットによる属性：目論見書又は投資信託約款において、上記 から の「発行体」による区分のほか、特にクレジットに対して明確な記載があるものについては、上記 から に掲げる区分に加え「高格付債」「低格付債」等を併記することも可とする。

(3)不動産投信

これ以上の詳細な分類は行わないものとする。

(4)その他資産

組入れている資産を記載するものとする。

(5)資産複合

以下の小分類に該当する場合には当該小分類を併記することができる。

資産配分固定型：目論見書又は投資信託約款において、複数資産を投資対象とし、組入比率については固定的とする旨の記載があるものをいう。なお、組み合わせている資産を列挙するものとする。

資産配分変更型：目論見書又は投資信託約款において、複数資産を投資対象とし、組入比率については、機動的な変更を行なう旨の記載があるものもしくは固定的とする旨の記載がないものをいう。なお、組み合わせている資産を列挙するものとする。

2. 決算頻度による属性区分

年1回：目論見書又は投資信託約款において、年1回決算する旨の記載があるものをいう。

年2回：目論見書又は投資信託約款において、年2回決算する旨の記載があるものをいう。

年4回：目論見書又は投資信託約款において、年4回決算する旨の記載があるものをいう。

年6回(隔月)：目論見書又は投資信託約款において、年6回決算する旨の記載があるものをいう。

年12回(毎月)：目論見書又は投資信託約款において、年12回(毎月)決算する旨の記載があるものをいう。

日々：目論見書又は投資信託約款において、日々決算する旨の記載があるものをいう。

その他：上記属性にあてはまらない全てのものをいう。

3. 投資対象地域による属性区分(重複使用可能)

グローバル：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が世界の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。なお、「世界の資産」の中に「日本」を含むか含まないかを明確に記載するものとする。

日本：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

北米：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が北米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

欧州：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が欧州地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

アジア：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本を除くアジア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

オセアニア：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益がオセアニア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

中南米：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が中南米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

アフリカ：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益がアフリカ地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

中近東(中東)：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が中近東地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

エマージング：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益がエマージング地域(新興成長国(地域))の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

4. 投資形態による属性区分

ファミリーファンド：目論見書又は投資信託約款において、親投資信託(ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除く。)を投資対象として投資するものをいう。

ファンド・オブ・ファンズ：「投資信託等の運用に関する規則」第2条に規定するファンド・オブ・ファンズをいう。

5. 為替ヘッジによる属性区分

為替ヘッジあり：目論見書又は投資信託約款において、為替のフルヘッジ又は一部の資産に為替のヘッジを行う旨の記載があるものをいう。

為替ヘッジなし：目論見書又は投資信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるもの又は為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいう。

6. インデックスファンドにおける対象インデックスによる属性区分

日経225

TOPIX

その他の指数：前記指数にあてはまらない全てのものをいう。

7. 特殊型

ブル・ベア型：目論見書又は投資信託約款において、派生商品をヘッジ目的以外に用い、積極的に投資を行うとともに各種指数・資産等への連動若しくは逆連動(一定倍の連動若しくは逆連動を含む。)を目指す旨の記載があるものをいう。

条件付運用型：目論見書又は投資信託約款において、仕組債への投資またはその他特殊な仕組みを用いることにより、目標とする投資成果(基準価額、償還価額、収益分配金等)や信託終了日等が、明示的な指標等の値により定められる一定の条件によって決定される旨の記載があるものをいう。

ロング・ショート型/絶対収益追求型：目論見書又は投資信託約款において、特定の市場に左右されにくい収益の追求を目指す旨若しくはロング・ショート戦略により収益の追求を目指す旨の記載があるものをいう。

その他型：目論見書又は投資信託約款において、上記 から に掲げる属性のいずれにも該当しない特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいう。

上記は、一般社団法人投資信託協会が定める分類方法に基づき記載しています。また、商品分類および属性区分の定義は一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」を基に委託会社が作成したものです。なお、一般社団法人投資信託協会のホームページ (<https://www.toushin.or.jp/>) でもご覧頂けます。

ファンドの特色

- 1** 内外の債券を実質的な投資対象とする投資信託証券を主要投資対象とします。また組入れにあたっては、内外のETF(上場投資信託証券)に投資する場合があります。
- 2** 資産配分は、いちよし証券株式会社の助言を受け決定します。
- 3** 投資対象とする投資信託証券については、収益機会の追求やリスクの分散などを目的として適宜見直しを行います。この際、定性評価や定量評価などを勘案のうえ、新たに投資信託証券を指定したり、既に指定されていた投資信託証券を外したりする場合があります。

※当ファンドの投資対象とする投資信託証券の組入れ・運用に関しては、いちよし証券株式会社の投資助言を受けます。

主な投資制限

- 投資信託証券への投資割合には制限を設けません。
- 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。
- 株式への直接投資は行いません。

分配方針

毎年11月16日(休日の場合は翌営業日)に決算を行い、原則として以下の方針に基づき収益分配を行います。

- 分配対象額の範囲は、経費等控除後の繰越分を含めた配当等収益および売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。
- 収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等の理由により分配を行わないことがあります。
- 留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

※運用状況により分配金額は変動します。

※将来の分配金の支払い及びその全額について示唆、保証するものではありません。

市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行えない場合があります。

信託金限度額

- ・ 1兆円を限度として信託金を追加することができます。
- ・ 委託会社は受託会社と合意のうえ、当該限度額を変更することができます。

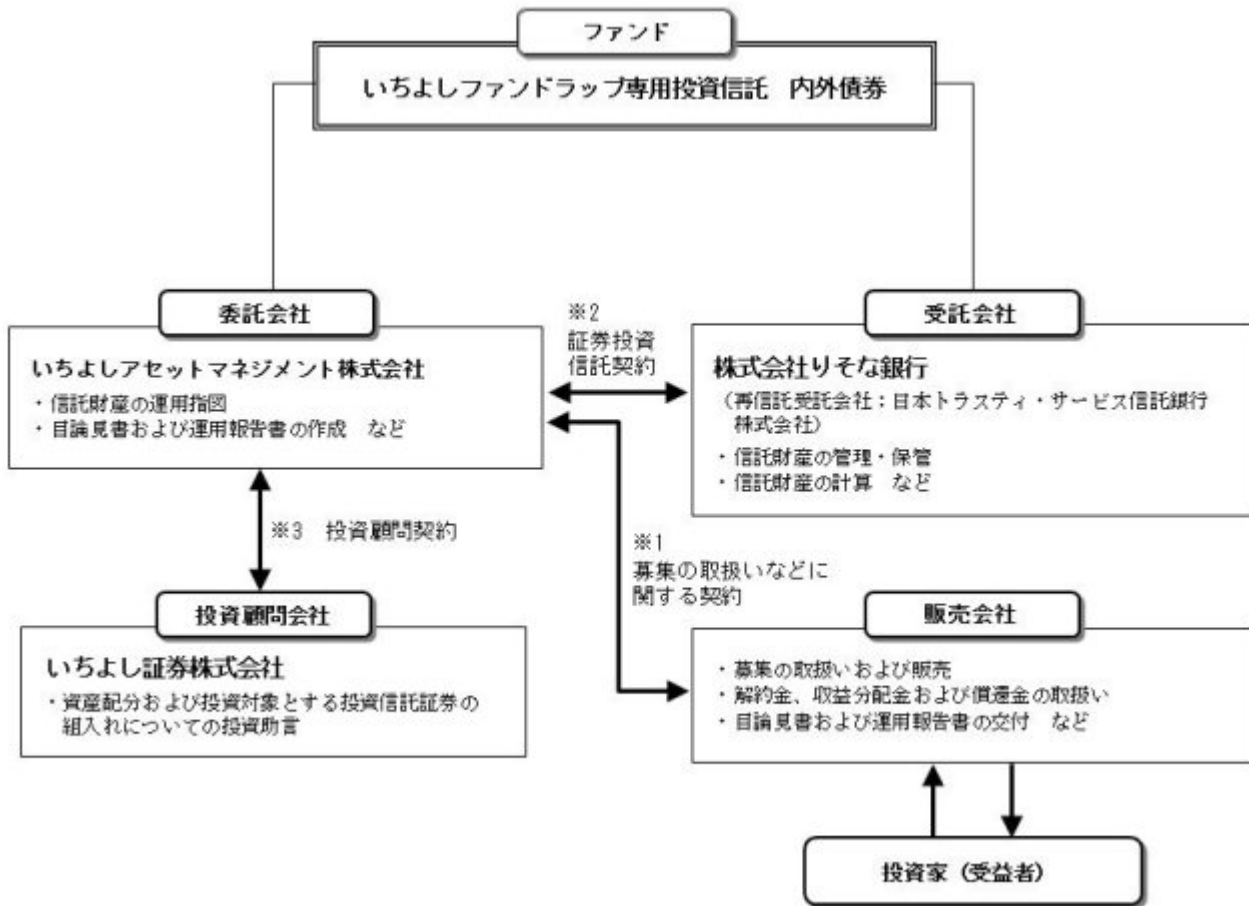
(2) 【ファンドの沿革】

2015年2月27日

- ・ 信託契約締結、設定、運用開始

(3) 【ファンドの仕組み】

ファンドの仕組み



- 1 投資信託を販売するルールを委託会社と販売会社の間で規定したものの。販売会社が行なう募集の取扱い、収益分配金・償還金の支払い、解約請求の受付の業務範囲の取決めの内容などが含まれています。
- 2 投資信託を運営するルールを委託会社と受託会社の間で規定したものの。運用の基本方針、投資対象、投資制限、信託報酬、受益者の権利、募集方法の取決めの内容などが含まれています。
- 3 投資顧問会社から株式、債券などの有価証券に対する投資判断についての助言（有価証券の種類、銘柄、数量、売買時期の判断など）を受けるルールを委託会社と投資顧問会社との間で規定したものの。投資助言を受ける対象資産、助言の内容、報酬の取決めの内容などが含まれています。

<ファンド・オブ・ファンズの仕組み>

当ファンドは、投資信託証券に投資するファンド・オブ・ファンズです。



委託会社の概況（2019年11月末現在）

- 1) 資本金
490百万円
- 2) 沿革

1986年10月30日	一吉投資顧問株式会社設立
1987年 9月 9日	投資一任認可取得
2012年 5月 1日	「いちよしアセットマネジメント株式会社」へ商号変更
2014年 1月29日	投資信託委託業 開始

2015年 5月14日

第二種金融商品取引業登録

3) 大株主の状況

名 称	住 所	所有株数	所有比率
いちよし証券株式会社	東京都中央区日本橋茅場町一丁目5番8号	15,200株	100%

2【投資方針】

(1)【投資方針】

主として、別に定める国内外の投資信託証券に投資し、信託財産の中長期的な成長を目指します。

投資信託証券の組入れ比率は、原則として高位を維持しますが、景気動向や市況動向を勘案して低位になることがあります。

資産配分および投資対象とする投資信託証券の組入れは、いちよし証券株式会社の助言を受け決定します。

投資対象の投資信託証券は、定期的に定性評価、定量評価等を勘案して適宜見直しを行い、組入れている指定投資信託証券の入れ換えを行うことがあります。

内外のETF（上場投資信託）に投資する場合があります。

市況動向や当ファンドの資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

(2)【投資対象】

別に定める国内外の投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。以下同じ。）を主要投資対象とします。

投資の対象とする資産の種類

この信託において投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

1. 次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。）

イ. 有価証券

ロ. 金銭債権

ハ. 約束手形

2. 次に掲げる特定資産以外の資産

イ. 為替手形

有価証券および金融商品の指図範囲等

委託者は、信託金を、主として別に定める国内外の投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）および投資法人または外国投資法人の投資証券（振替投資口を含みます。）をいいます。以下同じ。）のほか、次の有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図します。

1. コマーシャル・ペーパー及び短期社債等

2. 外国又は外国の者の発行する証券又は証書で、前号の証券又は証書の性質を有するもの

3. 国債証券、地方債証券、特別の法律により法人の発行する債券及び社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券の新株引受権証券及び短期社債等を除きます。）

4. 受益権発行信託の受益証券

なお、第3号の証券を以下「公社債」といい、公社債に係る運用の指図は買い現先取引（売戻し条件付の買い入れ）及び債券貸借取引（現金担保付き債券借入れ）に限り行うことができるものとします。

委託者は、信託金を、前記 に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することの指図ができます。

1. 預金

2. 指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）

3. コール・ローン

4. 手形割引市場において売買される手形

前記の規定にかかわらず、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託者が運用上必要と認めるときには、委託者は、信託金を、前記 第1号から第4号までに掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

投資対象とする投資信託証券の概要

以下に記載されている各ファンドの内容等は、委託会社が知りうる情報などを基に作成したものです。

今後、投資信託証券の各委託会社の都合などにより変更されることがあります。

<1. ノムラF0Fs用インデックスファンド・国内債券（適格機関投資家専用）>

委託会社	野村アセットマネジメント株式会社
ファンドの分類	追加型投信 / 国内 / 債券 / 分散型
運用の基本方針	
主要投資対象・目的	「国内債券NOMURA-BPI総合マザーファンド」受益証券を主要投資対象として主にわが国の公社債へ実質的な投資を行い、信託財産の中長期的な成長を目指します。なお、公社債等に直接投資する場合があります。
ベンチマーク	NOMURA-BPI総合（NOMURA-ボンド・パフォーマンス・インデックス総合）
運用方針	「国内債券NOMURA-BPI総合マザーファンド」受益証券を主要投資対象としNOMURA-BPI総合（NOMURA-ボンド・パフォーマンス・インデックス総合）の動きに連動する投資成果を目指して運用を行います。 「国内債券NOMURA-BPI総合マザーファンド」受益証券の組み入れ比率は原則として高位を保ちます。 資金動向、市場動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。
投資制限	株式への直接投資は行ないません。株式への投資は、転換社債を転換および新株予約権（転換社債型新株予約権付社債の新株予約権に限り、）を行使したものに限り、株式への投資割合は信託財産の純資産総額の5%以内とします。 外貨建資産への投資は行ないません。 デリバティブの利用はヘッジ目的に限定します。 同一銘柄の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。 同一銘柄の転換社債ならびに転換社債型新株予約権付社債への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えることとなるデリバティブ取引等（同規則に定めるデリバティブ取引等をいいます。）の利用は行ないません。 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ取引等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、同規則に従い当該比率以内となるよう調整を行なうこととします。
信託期間	無期限
費用	
信託報酬	年率:0.308%（税抜:0.28%）
信託財産留保額	1万口につき基準価額の0.1%
その他の費用	前記信託報酬のほか、信託事務の諸費用およびその他諸費用（監査費用、印刷等費用、受益権の管理費用等）をファンドから支弁します。
その他	
受託会社	野村信託銀行株式会社

決算日	毎年9月6日（ただし休業日の場合は翌営業日）
-----	------------------------

<2. ニッセイ日本物価連動国債ファンド（適格機関投資家専用）>

委託会社	ニッセイアセットマネジメント株式会社
ファンドの分類	追加型投信 / 国内 / 債券
運用の基本方針	
主要投資対象・目的	「ニッセイ日本物価連動国債 マザーファンド」受益証券を主要投資対象として主に国内の物価連動国債等へ実質的な投資を行い、信託財産の中長期的な成長をめざします。なお直接、公社債等に投資を行う場合があります。
ベンチマーク	NOMURA 物価連動国債インデックス（フロアあり）
運用方針	<p>主として「ニッセイ日本物価連動国債 マザーファンド」受益証券への投資を通じて国内の物価連動国債等に投資を行い、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。</p> <p>景気、物価、需給動向および個別銘柄特性等の調査・分析に基づき、ポートフォリオの構築を行います。</p> <p>上記親投資信託の受益証券の組入比率は、原則として高位を保ちます。</p> <p>資金動向、市場動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。</p>
投資制限	<p>株式への投資は転換社債の転換および新株予約権の行使による取得に限るものとし、実質投資割合は信託財産の純資産総額の10%以下とします。なお、ここでいう新株予約権とは、新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの（以下会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含め「転換社債型新株予約権付社債」といいます。）の新株予約権をいいます。</p> <p>同一銘柄の転換社債および転換社債型新株予約権付社債への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。</p> <p>投資信託証券（上場投資信託証券等を除きます。）への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>外貨建資産への投資は行いません。</p> <p>デリバティブ取引等の利用は、ヘッジ目的に限定しません。</p> <p>デリバティブ取引等について、一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。</p> <p>一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ取引等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ100分の10、合計で100分の20を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則にしたがい、当該比率以内となるよう調整を行うこととします。</p>
信託期間	設定日～2024年11月11日まで
費用	
信託報酬	年率:0.253%（税抜:0.23%）
信託財産留保額	なし
その他の費用	前記信託報酬のほか、信託事務の諸費用およびその他諸費用（監査費用、印刷等費用、受益権の管理費用等）をファンドから支弁します。
その他	
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社

決算日	毎年11月10日（ただし休業日の場合は翌営業日）
-----	--------------------------

<3. ニッセイ国内債券アクティブファンド（適格機関投資家専用）>

委託会社	ニッセイアセットマネジメント株式会社
ファンドの分類	追加型投信 / 国内 / 債券
運用の基本方針	
主要投資対象・目的	「ニッセイ国内公社債クレジット特化型 マザーファンド」受益証券を主要投資対象として主に国内の公社債へ実質的な投資を行い、信託財産の中長期的な成長をめざします。なお直接、公社債等に投資を行う場合があります。
ベンチマーク	NOMURA-BPI総合（NOMURA-ボンド・パフォーマンス・インデックス総合）
運用方針	<p>「ニッセイ国内公社債クレジット特化型 マザーファンド」受益証券を通じて、主として国内の公社債に投資し、債券種類別構成比の調整や社債の個別銘柄選択等、信用リスクを適切に管理し、運用を行います。</p> <p>「NOMURA-BPI（総合）指数」をベンチマークとし、ベンチマークを中長期的に上回る投資成果の獲得をめざします。</p> <p>上記親投資信託の受益証券の組入比率は、原則として高位を保ちます。</p> <p>資金動向、市場動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。</p>
投資制限	<p>株式への投資は転換社債の転換および新株予約権の行使による取得に限るものとし、実質投資割合は信託財産の純資産総額の10%以下とします。なお、ここでいう新株予約権とは、新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの（以下会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含め「転換社債型新株予約権付社債」といいます。）の新株予約権をいいます。</p> <p>同一銘柄の転換社債および転換社債型新株予約権付社債への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。</p> <p>投資信託証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の20%以下とします。</p> <p>デリバティブ取引等について、一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。</p> <p>一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ取引等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ100分の10、合計で100分の20を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則にしたがい、当該比率以内となるよう調整を行うこととします。</p>
信託期間	設定日～2024年11月11日まで
費用	
信託報酬	年率:0.352%（税抜0.32%）
信託財産留保額	なし
その他の費用	前記信託報酬のほか、信託事務の諸費用およびその他諸費用（監査費用、受益権の管理費用等）をファンドから支弁します。
その他	
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社

決算日	毎年11月10日（ただし休業日の場合は翌営業日）
-----	--------------------------

<4. ノムラF0Fs用インデックスファンド・外国債券（適格機関投資家専用）>

委託会社	野村アセットマネジメント株式会社
ファンドの分類	追加型投信 / 海外 / 債券 / 分散型
運用の基本方針	
主要投資対象・目的	「外国債券マザーファンド」受益証券を主要投資対象として主に海外の公社債へ実質的な投資を行い、信託財産の中長期的な成長を目指します。なお、公社債等に直接投資する場合があります。
ベンチマーク	FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）
運用方針	<p>「外国債券マザーファンド受益証券」を主要投資対象とし、FTSE世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)の中長期的な動きを概ね捉える投資成果を目指して運用を行います。</p> <p>「外国債券マザーファンド受益証券」の組入比率は、原則として高位を維持することを基本とします。</p> <p>実質組入外貨建資産については、原則として替ヘッジを行いません。</p> <p>資金動向、市況動向等によっては上記のような運用が出来ない場合があります。</p>
投資制限	<p>株式への直接投資は行ないません。株式への投資は転換社債を転換および新株予約権（転換社債型新株予約権付社債の新株予約権に限り、）を行使したものに限り、株式への投資割合は信託財産の純資産総額の5%以内とします。</p> <p>外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。</p> <p>デリバティブの利用はヘッジ目的に限定します。</p> <p>同一銘柄の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。</p> <p>同一銘柄の転換社債ならびに転換社債型新株予約権付社債への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。</p> <p>一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えることとなるデリバティブ取引等（同規則に定めるデリバティブ取引等をいいます。）の利用は行ないません。</p> <p>一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ取引等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、同規則に従い当該比率以内となるよう調整を行なうこととします。</p>
信託期間	無期限
費用	
信託報酬	年率:0.374%（税抜0.34%）
信託財産留保額	1万口につき基準価額の0.1%
その他の費用	前記信託報酬のほか、信託事務の諸費用およびその他諸費用（監査費用、印刷等費用、受益権の管理費用等）をファンドから支弁します。
その他	
受託会社	野村信託銀行株式会社
決算日	毎年9月6日（ただし休業日の場合は翌営業日）

<5. 外国債券コア・ファンド（少人数私募）>

委託会社	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社
ファンドの分類	追加型投信 / 海外 / 債券

運用の基本方針	
主要投資対象・目的	「外国債券コア・マザーファンド」受益証券を主要投資対象として主に海外の債券へ実質的な投資を行い、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長を目指します。
ベンチマーク	ブルームバーグ・バークレイズ・グローバル・アグリゲート・インデックス（除く日本、円ベース、ヘッジ付き）
運用方針	<p>主としてマザーファンドの受益証券に投資し、原則として、その組入れ比率を高位に保ちます(ただし、投資環境等により、当該受益証券の組入れ比率を引き下げる場合もあります。)</p> <p>信託財産は、マザーファンドを通じて、主として、日本を除く世界各国の債券に幅広く分散投資を行います。投資にあたっては、以下を含む債券に投資することを基本とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界各国の国債 ・国際機関債 ・政府関係機関債 ・社債 ・モーゲージ証券 ・アセットバック証券 <p>実質外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。また、これとは別に通貨アクティブ・ポジションを構築し、通貨運用からの収益の確保も目指します。</p> <p>ブルームバーグ・バークレイズ・グローバル・アグリゲート・インデックス（除く日本、円ベース、ヘッジ付き）をベンチマークとし、長期的にこれを上回る投資成果を目指します。</p> <p>ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント・インターナショナル、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント・エル・ピーおよびゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント(シンガポール)ピーティーイー・リミテッドに債券および通貨の運用(デリバティブ取引等にかかる運用の指図を含みます。)の指図に関する権限を委託します。</p> <p>市況動向や資金動向その他の要因等によっては、運用方針に従った運用ができない場合があります。</p>

投資制限	<p>外貨建資産の組入れについては制限を設けません。</p> <p>デリバティブの利用はヘッジ目的に限定しません。</p> <p>株式(新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。なお、投資信託証券は株式に含みません。)への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>同一銘柄の債券への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の5%以下とします。ただし、国債、国際機関債、政府関係機関債および短期金融商品についてはかかる上限は適用されないものとします。</p> <p>同一銘柄の株式への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の3%以下とします。</p> <p>同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の3%以下とします。</p> <p>投資信託証券(マザーファンドの受益証券を除きます。)への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>同一銘柄の転換社債、ならびに新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの(以下会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含め「転換社債型新株予約権付社債」といいます。)への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の3%以下とします。</p> <p>デリバティブ取引等については、一般社団法人投資信託協会規則に従い、委託者が定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。</p> <p>一般社団法人投資信託協会の規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ取引等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以下とし、当該比率を超えることとなった場合には、委託者は、一般社団法人投資信託協会の規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。</p>
信託期間	無期限
費用	
信託報酬	年率:0.11% (税抜0.1%)
信託財産留保額	なし
その他の費用	前記信託報酬のほか、信託財産に関する租税、信託事務の処理等に要する諸費用(監査費用、印刷費用等)等をファンドから支弁します。
その他	
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社
決算日	毎年8月12日(ただし休業日の場合は翌営業日)

<6. グローバル変動金利債券ファンド(年1回分配型)円ヘッジありコース(適格機関投資家専用)>

委託会社	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社
ファンドの分類	追加型投信 / 海外 / 債券
運用の基本方針	
主要投資対象・目的	「グローバル変動金利債券マザーファンド」受益証券を主要投資対象として主に海外の公社債へ実質的な投資を行い、信託財産の成長を目指します。
ベンチマーク	なし

運用方針	<p>「グローバル変動金利債券マザーファンド」受益証券への投資を通じて、主として米ドル建て、ユーロ建て、英ポンド建ておよびスイスフラン建ての各国政府・企業等が発行する変動金利債券等（ ）に分散投資を行います。対象となる債券は、原則先進国企業中心で、発行体格付けは投資適格（BBB-）以上。また、信託財産の純資産総額の25%以下で固定金利債券等（ ）にも投資を行います。さらに、金利動向等に応じて各種別の投資比率を機動的に調整します。なお、マザーファンドにおける債券の運用指図に関する権限を「ユニオンバンクケールブリヴェュービーピーエスエー」に委託します。</p> <p>変動金利付債券・固定金利債券ともに劣後債、優先出資証券等を含みます。</p> <p>ポートフォリオ全体のデュレーションを最大1.5年程度までとします。</p> <p>実質組入外貨建資産については、原則として対円で為替ヘッジを行います。</p> <p>資金動向、市況動向、残存信託期間その他特殊な状況等によっては、上記のような運用ができない場合があります。</p>
投資制限	外貨建資産への実質投資割合に制限を設けません。
信託期間	設定日～2024年4月19日まで
費用	
信託報酬	<p>年率：0.451%（税抜0.41%）</p> <p>投資顧問会社への報酬は、委託会社が収受する委託報酬から支弁されます。</p>
信託財産留保額	なし
その他の費用	前記信託報酬のほか、信託事務の諸費用およびその他諸費用（監査費用、受益権の管理費用等）をファンドから支弁します。
その他	
受託会社	みずほ信託銀行株式会社
決算日	毎年4月20日（ただし休業日の場合は翌営業日）

<7. グローバル変動金利債券ファンド（年1回分配型）円ヘッジなしコース（適格機関投資家専用）>

委託会社	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社
ファンドの分類	追加型投信 / 海外 / 債券
運用の基本方針	
主要投資対象・目的	「グローバル変動金利債券マザーファンド」受益証券を主要投資対象として主に海外の公社債へ実質的な投資を行い、信託財産の成長を目指します。
ベンチマーク	なし
運用方針	<p>「グローバル変動金利債券マザーファンド受益証券」への投資を通じて、主として米ドル建て、ユーロ建て、英ポンド建ておよびスイスフラン建ての各国政府・企業等が発行する変動金利債券等（ ）に分散投資を行います。対象となる債券は、原則先進国企業中心で、発行体格付けは投資適格（BBB-）以上。また、信託財産の純資産総額の25%以下で固定金利債券等（ ）にも投資を行います。さらに、金利動向等に応じて各種別の投資比率を機動的に調整します。なお、マザーファンドにおける債券の運用指図に関する権限を「ユニオンバンクケールブリヴェュービーピーエスエー」に委託します。</p> <p>変動金利付債券・固定金利債券ともに劣後債、優先出資証券等を含みます。</p> <p>ポートフォリオ全体のデュレーションを最大1.5年程度までとします。</p> <p>実質組入外貨建資産については、原則として対円で為替ヘッジを行いません。</p> <p>資金動向、市況動向、残存信託期間その他特殊な状況等によっては、上記のような運用ができない場合があります。</p>
投資制限	外貨建資産への実質投資割合に制限を設けません。
信託期間	設定日～2024年4月19日まで

費用	
信託報酬	年率：0.451%（税抜0.41%） 投資顧問会社への報酬は、委託会社が収受する委託報酬から支弁されます。
信託財産留保額	なし
その他の費用	前記信託報酬のほか、信託事務の諸費用およびその他諸費用（監査費用、受益権の管理費用等）をファンドから支弁します。
その他	
受託会社	みずほ信託銀行株式会社
決算日	毎年4月20日（ただし休業日の場合は翌営業日）

< 8. LM・グローバル債券ファンド（適格機関投資家専用） >

委託会社	レグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社
ファンドの分類	追加型投信 / 海外 / 債券 / 分散型
運用の基本方針	
主要投資対象・目的	「LM・グローバル債券マザーファンド」受益証券を主要投資対象として主に日本を除く世界の公社債に実質的に投資を行うことにより、信託財産の中長期的成長を目指します。
ベンチマーク	FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）
運用方針	「LM・グローバル債券マザーファンド」受益証券を主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を目指します。 「LM・グローバル債券マザーファンド」受益証券の組入比率は、原則として高位を維持します。 資金動向、市場動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。
投資制限	株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 同一銘柄の株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。 同一銘柄の転換社債等への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。 投資信託証券（親投資信託の受益証券を除きます。）への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。 外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。 デリバティブの活用は、ヘッジ目的に限定しません。 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として、それぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。
信託期間	無期限
費用	
信託報酬	年率：0.539%（税抜：0.49%）
信託財産留保額	なし
その他の費用	信託事務の諸費用およびその他諸費用（監査費用、印刷等費用、計理およびこれに付随する業務の委託等の費用、受益権の管理費用等）をファンドから支弁します。
その他	
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社

決算日	毎年3月1日（ただし休業日の場合は翌営業日）
-----	------------------------

< 9. LM・米国債券ファンド（適格機関投資家専用） >

委託会社	レグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社
ファンドの分類	追加型投信 / 海外 / 債券 / 分散型
運用の基本方針	
主要投資対象・目的	「LM・米国債券コア・プラス・マザーファンド」受益証券を主要投資対象として主に米国ドル建ての公社債に実質的に投資を行うことにより、信託財産の中長期的成長を目指します。
ベンチマーク	ブルームバーグ・バークレイズ米国総合インデックス（円ベース）
運用方針	「LM・米国債券コア・プラス・マザーファンド」受益証券を主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を目指します。 「LM・米国債券コア・プラス・マザーファンド」受益証券の組入比率は、原則として高位を維持します。 資金動向、市場動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。
投資制限	株式（新株引受権証券及び新株予約権証券を含みます。）への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 同一銘柄の株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。 同一銘柄の転換社債等への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 投資信託証券（親投資信託の受益証券を除きます。）への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。 外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。 為替予約の利用及びデリバティブの使用はヘッジ目的に限定しません。 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャー及びデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として、それぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。
信託期間	無期限
費用	
信託報酬	年率:0.517%（税抜0.47%）
信託財産留保額	基準価額に対して0.1%
その他の費用	前記信託報酬のほか、信託事務の諸費用およびその他諸費用（監査費用、印刷等費用、計理およびこれに付随する業務の委託等の費用、受益権の管理費用等）をファンドから支弁します。
その他	
受託会社	三井住友信託銀行株式会社
決算日	毎年4月7日（ただし休業日の場合は翌営業日）

< 10. ドイツ欧州債券オープン（適格機関投資家専用） >

委託会社	ドイツ・アセット・マネジメント株式会社
ファンドの分類	追加型投信 / 海外 / 債券
運用の基本方針	

主要投資対象・目的	「ドイチェ・ヨーロッパ インカム マザーファンド」受益証券を主要投資対象として主に欧州通貨建てで発行される国債、政府機関債、事業債等に実質的な投資を行うことにより、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指します。
ベンチマーク	ブルームバーグ・バークレイズ汎欧州総合インデックス（円ベース ヘッジなし）
運用方針	<p>主要投資対象国は、ユーロ圏、非ユーロ圏を合わせた欧州諸国とします。</p> <p>公社債への投資は、原則としてB格相当以上の債券とします。</p> <p>実質外貨建て資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。</p> <p>市況動向および資金動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。</p> <p>マザーファンドに係る運用指図に関する権限をDWS インターナショナルGmbHに委託します。</p>
投資制限	<p>株式への実質投資割合は信託財産の純資産総額の10%以内とします。</p> <p>外貨建て資産への投資割合には制限を設けません。</p> <p>投資信託証券(マザーファンドの受益証券および上場投資信託証券を除きます)への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>同一銘柄の株式への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>同一銘柄の転換社債および転換社債型新株予約権付社債への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p>
信託期間	無期限
費用	
信託報酬	<p>年率:0.715%（税抜0.65%）</p> <p>投資顧問報酬への報酬は、委託会社が収受する委託者報酬から支弁されます。</p>
信託財産留保額	解約請求受付日の翌営業日の基準価額に0.15%を乗じて得た額とします。
その他の費用	前記信託報酬のほか、信託事務の諸費用およびその他諸費用（監査費用、法律顧問・税務顧問への報酬、印刷費用、郵送費用、公告費用、格付費用等を含みます。純資産総額の年率0.1%を上限）をファンドから支弁します。
その他	
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社
決算日	毎年7月25日（ただし休業日の場合は翌営業日）

< 11. MHAM豪ドル債券ファンド（適格機関投資家専用） >

委託会社	アセットマネジメントOne株式会社
ファンドの分類	追加型投信 / 海外 / 債券
運用の基本方針	
主要投資対象・目的	MHAM豪ドル債券マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）受益証券を主要投資対象とし、安定した収益の確保と信託財産の中長期的な成長を図ることを目指します。
ベンチマーク	ブルームバーグオーストラリア債券（総合）インデックス（為替ノーヘッジ・円換算ベース）

運用方針	<p>主としてオーストラリアの信用力の高い公社債を主要投資対象とするマザーファンド受益証券への投資を行います。</p> <p>ブルームバーグオーストラリア債券(総合)インデックス(為替ノーヘッジ・円換算ベース)をベンチマークとし、中・長期的にベンチマークを上回る運用成果を目指します。</p> <p>主としてマザーファンド受益証券への投資を通じて、以下のような運用を行います。</p> <p>a) 主に豪ドル建ての国債、州政府債、事業債等の公社債に分散投資を行います。</p> <p>b) 公社債の種別間における投資配分の決定およびデュレーション戦略は、マクロ経済分析を基礎とするトップダウン・アプローチにより決定します。なお、ファンド全体のデュレーションは、ベンチマークのデュレーションに対して-2.0年~+2.0年程度の範囲とします。</p> <p>c) 事業債への投資にあたっては、マクロ要因分析、業種分析、個別企業の財務・業務分析等の信用リスク分析に基づき、業種配分比率の決定および銘柄選択を行います。</p> <p>d) 組入れる公社債については、取得時においてA格相当以上(スタンダード・アンド・プアーズ社によるA-格以上もしくはムーディーズ社によるA3格以上:格付のない場合には、委託者またはマザーファンドにおける約款の規定に従い運用の指図に関する権限の一部の委託を受けた者(以下「運用者」といいます。))が当該格付と同等の信用度を有すると判断したものを含みません。の格付を得ている銘柄を投資適格として投資対象とするとともに、ファンド全体の加重平均格付を、AA格相当(AA-格[Aa3格])以上とすることを基本とします。</p> <p>e) 組入れた公社債について、取得後、格付の低下によってA格相当以上でなくなった場合は、運用者の判断により実質投資割合において信託財産の純資産総額の10%を上限として保有することができるものとします。</p> <p>f) 政府・州政府およびそれらの代理機関、国際機関等が発行・保証する公社債を除き、一発行体当たりの実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%程度を上限とします。</p> <p>マザーファンド受益証券の組入比率は、高位を保つことを基本とします。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。市況動向やファンドの資金事情等によっては、上記のような運用ができない場合があります。</p> <p>マザーファンドにおける円の余資運用以外の運用の指図に関する権限を、AMPキャピタル・インベスターズ・リミテッドに委託します。</p>
投資制限	<p>株式への投資は、転換社債の転換および新株予約権の行使により取得したものに限り、実質投資割合において信託財産の純資産総額の10%以下とします。</p> <p>外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。</p> <p>同一銘柄の株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>同一銘柄の転換社債および転換社債型新株予約権付社債への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>投資信託証券(マザーファンド受益証券は除きます。)への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p>
信託期間	信託設定日~2024年7月19日
費用	
信託報酬	<p>年率:0.781%(税抜0.71%)</p> <p>投資顧問会社への報酬は、委託会社が収受する委託者報酬から支弁されます。</p>
信託財産留保額	なし

その他の費用	前記信託報酬のほか、信託事務の諸費用およびその他諸費用（監査費用、外国における資産の保管等に要する費用等）をファンドから支弁します。
その他	
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社
決算日	毎年7月20日（ただし休業日の場合は翌営業日）

< 12. ノムラF0Fs用インデックスファンド・新興国債券（適格機関投資家専用） >

委託会社	野村アセットマネジメント株式会社
ファンドの分類	追加型投信 / 海外 / 債券 / 分散型
運用の基本方針	
主要投資対象・目的	「新興国債券（現地通貨建て）マザーファンド」受益証券を主要投資対象として主に現地通貨建ての新興国公社債へ実質的な投資を行い、信託財産の中長期的な成長を目指します。
ベンチマーク	JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円換算ベース）
運用方針	<p>「新興国債券（現地通貨建て）マザーファンド」受益証を主要投資対象とし、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円換算ベース）の中長期的な動きを概ね捉える投資成果を目指して運用を行ないます。</p> <p>「新興国債券（現地通貨建て）マザーファンド」受益証の組入比率は、原則として高位を維持すること基本とします。</p> <p>JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円換算ベース）の中長期的な動きを効率的に捉える投資成果を目指すため、債券先物取引等のデリバティブ取引および為替予約取引をヘッジ目的以外の利用も含め活用する場合があります。</p> <p>実質組入外貨建資産については、原則とし為替ヘッジを行ないません。</p> <p>資金動向、市況等によっては上記のような運用ができない場合があります。</p>
投資制限	<p>株式への直接投資は行いません。株式への投資は転換社債を転換および新株予約権（転換社債型新株予約権付社債の予約権に限り）を行使したものに限り、株式への投資割合は信託財産の純資産総額の5%以内とします。</p> <p>外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。</p> <p>デリバティブの利用はヘッジ目的に限定しません。</p> <p>外国為替予約取引はヘッジ目的に限定しません。</p> <p>同一銘柄の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。</p> <p>同一銘柄の転換社債ならびに転換社債型新株予約権付社債への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。</p> <p>一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えることとなるデリバティブ取引等（同規則に定めるデリバティブ取引等をいいます。）の利用は行ないません。</p> <p>一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ取引等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、同規則に従い当該比率以内となるよう調整を行なうこととします。</p>
信託期間	無期限
費用	
信託報酬	年率:0.407%（税抜0.37%）

信託財産留保額	1万口につき基準価額の0.3%
その他の費用	前記信託報酬のほか、信託事務の諸費用およびその他諸費用（監査費用、印刷等費用、受益権の管理費用等）をファンドから支弁します。
その他	
受託会社	野村信託銀行株式会社
決算日	毎年9月6日(ただし休業日の場合は翌営業日)

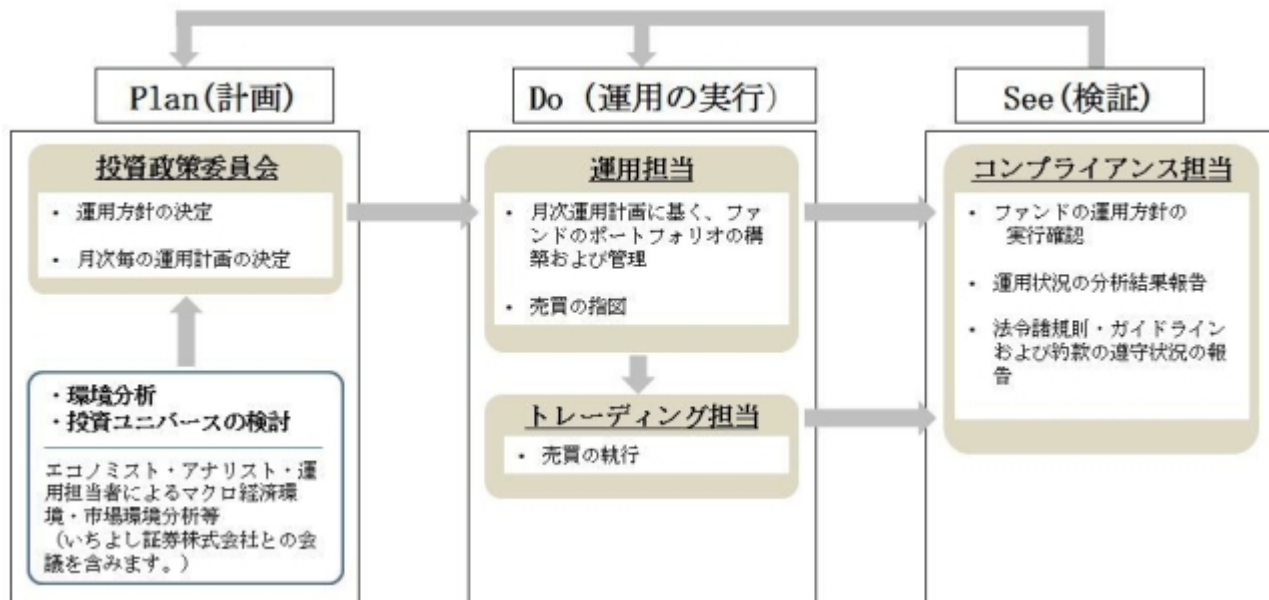
< 13. アライアンス・バーンスタイン・エマージング債券ファンドW（適格機関投資家専用） >

委託会社	アライアンス・バーンスタイン株式会社
ファンドの分類	追加型投信 / 海外 / 債券
運用の基本方針	
主要投資対象・目的	「アライアンス・バーンスタイン・新興国債券マザーファンド」受益証券を主要投資対象として主に新興国の公社債へ実質的な投資を行い、信託財産の長期的な成長を目指します。
ベンチマーク	JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・グローバル（円換算指数）（ ） JPモルガン社が算出するインデックスであり、その著作権等の知的財産権は同社に帰属します。
運用方針	「アライアンス・バーンスタイン・新興国債券マザーファンド」受益証券を主要投資対象とし、高水準のインカム・ゲインを確保するとともに、信託財産の長期的な成長を図ることを目標に運用を行います。なお、債券等に直接投資する場合があります。 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。 信託財産の効率的な運用に資するため、先物取引等、スワップ取引、金利先渡取引および為替先渡取引を行うことができます。 投資環境に重大な変化が生じた場合には、信託財産を保全する目的で、主要投資対象への投資を大幅に縮小する場合があります。 投資対象国における非常事態（金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資金凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等）を含む市場動向等に急激な変化が生じたときまたは予想されるとき、残存元本が運用に支障をきたす水準となったとき等やむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。

投資制限	<p>外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。</p> <p>株式への実質投資は、優先証券のうち株券または新株引受権証券の性質を有するものならびに転換社債の転換および新株予約権を行使したものに限り、信託財産の純資産総額の10%以内とします。</p> <p>同一銘柄の株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。</p> <p>同一銘柄の転換社債ならびに転換社債型新株予約権付社債への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。</p> <p>投資信託証券（マザーファンドの受益証券を除きます。）への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。</p> <p>《デリバティブ取引等に係る投資制限》</p> <p>委託会社は、デリバティブ取引等について、一般社団法人投資信託協会規則の定めるところに従い、合理的な方法により算出した額が信託財産の純資産総額を超えないものとします。</p> <p>《信用リスク集中回避のための投資制限》</p> <p>一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対するエクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として、それぞれ100分の35を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、委託会社は、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。</p>
信託期間	無期限
費用	
信託報酬	年率:0.836%（税抜:0.76%）
信託財産留保額	なし
その他の費用	前記信託報酬のほか、信託事務の諸費用およびその他諸費用（監査費用、印刷等費用、受益権の管理費用等。純資産総額の0.10%を上限）をファンドから支弁します。
その他	
受託会社	三井住友信託銀行株式会社
決算日	毎年10月7日（ただし休業日の場合は翌営業日）

（3）【運用体制】

<いちよしアセットマネジメント株式会社（委託会社）における運用体制>



a. 計画 (Plan)

運用担当者が、マクロ経済環境、市場環境の分析を行います。さらに投資対象とする投資信託証券の組入れは、いちよし証券株式会社の助言を受けます。以上の分析、助言をもとに定期的に開催される投資政策委員会において運用方針を決定し、月次運用計画を策定いたします。

b. 実行 (Do)

運用担当者は月次運用計画に基づき、ファンドのポートフォリオを構築し、日々のモニタリングによりポートフォリオ管理を行いながら売買を執行します。

c. 検証 (See)

ミドル部門によるパフォーマンス分析、ポートフォリオ管理を行う他、コンプライアンス担当者により、日々の売買状況、評価結果、運用リスク状況、法令諸規則、運用ガイドライン、約款等の遵守状況についてモニタリングが行われます。異常があった場合、直ちに運用担当者に状況確認がなされ、対応結果の報告を行います。投資政策委員会においては、運用担当者から運用状況についての報告が行われるとともに、ミドル及びコンプライアンス担当者から運用評価・分析結果について報告され、今後の運用方針が検討されます。

上記体制は、2019年11月末現在のものであり、今後変更となる場合があります。

(4) 【配分方針】

収益配分方針

毎決算時（原則として毎年11月16日 / 休日の場合は翌営業日）に、原則として以下の方針に基づき収益分配を行ないます。

- 1) 分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。
- 2) 収益分配金額は、委託者が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等の理由により分配を行わないことがあります。
- 3) 収益分配に充てなかった利益の運用については、特に制限を設けません。委託者の判断に基づいて元本部分と同一の運用を行います。

収益分配金の支払い

< 分配金再投資コース（自動けいぞく投資コース） >

原則として、収益分配金は税金を差し引いた後、無手数料で自動的に再投資されます。

< 分配金受取りコース（一般コース） >

毎計算期間終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として決算日から起算して5営業日まで）から収益分配金を支払います。支払いは販売会社において行なわれます。

(5) 【投資制限】

約款に定める投資制限

- 1) 投資信託証券への投資割合には制限を設けません。
- 2) 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。
- 3) 株式への直接投資は行いません。
- 4) デリバティブの直接利用は行いません。
- 5) 信託財産に属する同一銘柄の投資信託証券への投資割合は制限を設けません。ただし、組入投資信託証券が、一般社団法人投資信託協会の規則に定めるエクスポージャーがルックスルーできる場合に該当しないときは、同一銘柄の投資信託証券への投資は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。
- 6) 一般社団法人投資信託協会の規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ取引等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会の規則に従い当該比率以内となるよう調整を行います。
- 7) 公社債の借入れ
 - イ) 委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、公社債の借入れの指図をすることができます。なお、当該公社債の借入れを行うにあたり担保の提供が必要と認めるときは、担保の提供の指図を行うものとします。
 - ロ) イ)の指図は、当該借入れに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
- 8) 信託財産の一部解約等の事由により、ロ)の借入れに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当する借入れた公社債の一部を返還するための指図をするものとします。
- 二) イ)の借入れに係る品借料は信託財産中から支弁します。
- 8) 外貨建有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。
- 9) 外国為替予約の指図
委託者は、信託財産に属する外貨建資産（外貨建有価証券、外国通貨表示の預金その他の資産をいいます。以下同じ。）について、当該外貨建資産の為替ヘッジのため、外国為替の売買の予約を指図することができます。
- 10) 資金の借入
 - イ) 委託者は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性に資するため、一部解約に伴う支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。）を目的として、又は再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
 - ロ) イ)の資金借入額は、次の各号に掲げる要件を満たす範囲内の額とします。
 1. 一部解約に伴う支払資金の手当てにあたっては、一部解約金の支払資金の手当のために行った有価証券等の売却又は解約等ならびに有価証券等の償還による受取りの確定している資金の額の範囲内
 2. 借入れ指図を行う日における信託財産の純資産総額の10%を超えないこと
- 8) 一部解約に伴う支払資金の手当てのための借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間又は受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とします。
- 二) 再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てのための借入期間は、信託財産から収益分配金が支給される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。
- ホ) 借入金の利息は信託財産中より支弁します。

法令による投資制限

同一法人の発行する株式（投資信託及び投資法人に関する法律）

同一法人の発行する株式について、委託会社が運用の指図を行なう投資信託全体で、当該株式の議決権の過半数を保有することとなる取引は行ないません。

3【投資リスク】

（１）ファンドのリスクおよび留意点

当ファンドは、主に投資信託証券への投資を通じて、実質的に内外の債券への投資を行いますので、組入れた有価証券の値動きにより、当ファンドの基準価額は大きく変動することがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。したがって、当ファンドは、元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、解約・償還金額が投資元本を下回り、損失を被る可能性があります。運用により信託財産に生じた利益または損失は、すべて受益者に帰属します。当ファンドは、預貯金とは異なります。預金保険または保険契約者保護機構の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。

以下の事項は、投資対象とする投資信託証券のリスクも含まれます。

価格変動リスク

- ・ 公社債は、金利の変動により価格が変動するリスクがあります。一般に金利が上昇した場合には、価格は下落し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。ただし、その価格変動幅は、残存期間やクーポンレートなどの発行条件などにより債券ごとに異なります。
- ・ 新興国の債券は、先進国の債券に比べて価格変動が大きくなる傾向があり、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。

流動性リスク

- ・ 市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。
- ・ 新興国の債券は、先進国の債券に比べて市場規模や取引量が少ないため、流動性リスクが高まる場合があります。

信用リスク

- ・ 公社債および短期金融資産の発行体にデフォルト（債務不履行）が生じた場合またはそれが予想される場合には、公社債および短期金融資産の価格が下落（価格がゼロになることもあります。）し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。また、実際にデフォルトが生じた場合、投資した資金が回収できないリスクが高い確率で発生します。
- ・ 新興国の債券は、先進国の債券に比べて利回りが高い反面、価格変動が大きく、デフォルトが生じるリスクが高まる場合があります。

為替変動リスク

- ・ 外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。
- ・ 一般に新興国の通貨は、先進国の通貨に比べて為替変動が大きくなる場合があります。

カントリー・リスク

- ・ 投資対象国における非常事態など（金融危機、財政上の理由による国自体のデフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争など）を含む市況動向や資金動向などによっては、ファンドにおいて重大な損失が生じるリスクがあり、投資方針に従った運用ができない場合があります。
- ・ 一般に新興国は、情報の開示などが先進国に比べて充分でない、あるいは正確な情報の入手が遅延する場合があります。

（ご注意）以上は、基準価額の主な変動要因であり、変動要因はこれに限られるものではありません。

その他の留意点

< 当ファンドの資産規模にかかる留意点 >

当ファンドの資産規模によっては、分散投資が効率的にできない場合があります。その場合には、適切な資産規模の場合と比較して収益性が劣る可能性があります。

< 収益分配方針にかかわる留意点 >

- ・ 計算期末に基準価額水準に応じて、信託約款（運用の基本方針3.）に定める収益分配方針により分配を行います。ただし、委託会社の判断により分配が行われないこともあります。
- ・ 収益分配金は、計算期間中に発生した運用収益（経費控除後の利子・配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。したがって、収益分配金の水準は、必ずしも計算期間中におけるファンドの収益率を示すものではありません。

- ・受益者のファンドの購入価額によっては、収益分配金の全額または一部が、実質的には元本の一部払い戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
 - ・収益分配金は、ファンドの純資産から支払われますので、収益分配金の支払後の純資産は減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。計算期間中の運用収益以上に収益分配金の支払を行う場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比較して下落することになります。
- < 受託会社の信用力にかかる留意点 >
- 受託会社の格付け低下、その他の事由によりその信用力が低下した場合には、為替取引その他の取引の相手方の提供するクレジット・ラインが削除される可能性があり、為替ヘッジその他の取引ができなくなる可能性があります。さらに、その場合には為替取引その他の取引に関して、適用される契約の条項にしたがい、すでに締結されている当該契約が一括清算される可能性もあります。これらの場合には、そのような事情がない場合と比較して収益性が劣る可能性があります。
- < クーリング・オフについて >
- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- < 法令・税制・会計制度等の変更の可能性 >
- 法令・税制・会計制度等は、今後変更される可能性もあります。

(2) リスク管理体制

< いちよしアセットマネジメント株式会社(委託会社)におけるリスク管理体制 >

コンプライアンスチェック

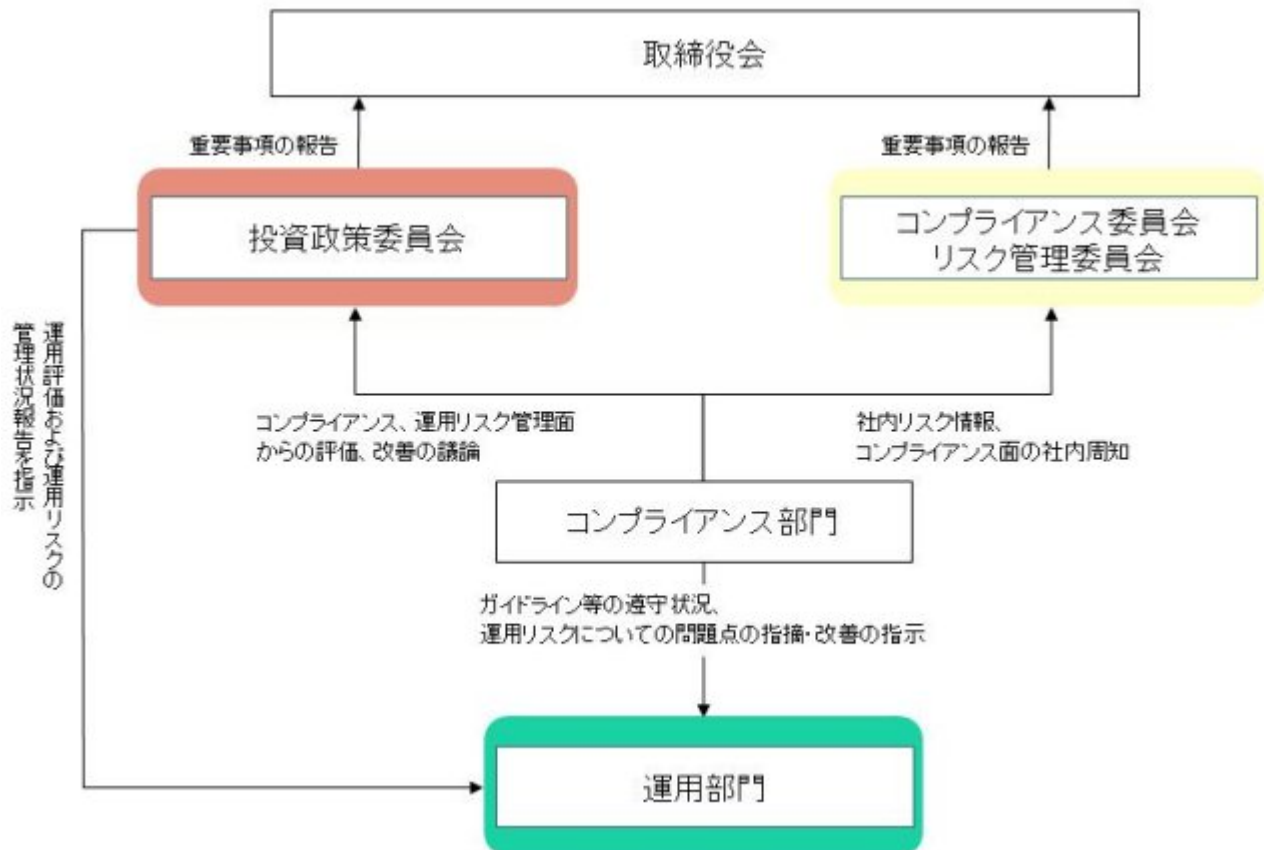
- ・コンプライアンス担当者が保有数量、売買状況等、評価損益率について日々モニタリングを行い、運用資産にかかる法令諸規則やガイドライン等の遵守状況ならびに運用リスクについての管理を行い、運用部門に対して、問題点の指摘・改善の指示が行える体制を採っています。

投資政策委員会(月次)

- ・投資方針の決定及び毎月の運用状況の確認を行います。
- ・運用パフォーマンスのモニター、評価に加え、コンプライアンス、リスク管理面からの評価、改善の必要性の有無を議論します。

コンプライアンス委員会、リスク管理委員会(月次)

- ・コンプライアンス面では新しいルールや自社の検証事例、他社における問題等について、社内での周知徹底を行い、全体的なコンプライアンス水準の向上を目指しています。
- ・運用リスク、オペレーションリスクを含めた各種のリスク面では、社内リスク情報をリスク管理委員会に集中させ、全社的なリスク管理体制の向上に努めています。



上記体制は2019年11月末現在のものであり、今後変更となる場合があります。

（参考情報）

ファンドの年間騰落率及び分配金再投資基準価額の推移



*分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものです。設定日前日を10,000として指数化し、設定日の属する月末より表示しております。

*年間騰落率は、2016年2月から2019年11月の各月末における1年間の騰落率を表示したものです。

*分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算しており、実際の基準価額と異なる場合があります。

ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較

グラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。



	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	7.4	41.9	34.1	37.2	9.3	16.4	19.3
最小値	△7.9	△22.0	△17.5	△27.4	△4.0	△12.3	△17.4
平均値	0.3	8.1	9.0	5.5	2.1	1.8	1.0

*全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

*2014年12月から2019年11月の5年間（当ファンドは2016年2月から2019年11月）の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

*決算日に対応した数値とは異なります。

*当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

各資産クラスの指数

日本株…東証株価指数(TOPIX)(配当込み)
 先進国株…MSCI-KOKUSAI インデックス(配当込み、円ベース)
 新興国株…MSCI エマージング・マーケット・インデックス
 (配当込み、円ベース)

日本国債…NOMURA-BPI 国債
 先進国債…FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)
 新興国債…JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・
 マーケッツ・グローバル・ディバースファイド(円ベース)

(注)海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

● 代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

東証株価指数(TOPIX)(配当込み)は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

MSCI-KOKUSAI インデックス(配当込み、円ベース)

MSCI-KOKUSAI インデックス(配当込み、円ベース)は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

MSCI エマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)

MSCI エマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI 国債は、野村証券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI 国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村証券株式会社に帰属します。

FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケッツ・グローバル・ディバースファイド(円ベース)

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケッツ・グローバル・ディバースファイド(円ベース)は、J.P. Morgan Securities LLC が算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケッツ・グローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

4【手数料等及び税金】**(1)【申込手数料】**

販売会社が定めるものとします。申込手数料率につきましては、販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。

- ・有価証券届出書提出日現在、販売会社における申込手数料はありません。
- ・＜分配金再投資コース（自動けいぞく投資コース）＞の場合、収益分配金の再投資により取得する口数については、申込手数料はかかりません。

(2)【換金（解約）手数料】

換金手数料

ありません。

信託財産留保額

解約請求受付日の翌々営業日の基準価額に0.1%の率を乗じて得た額（1口当たり）が差し引かれます。

「信託財産留保額」とは、投資信託を解約される受益者の解約代金から差し引いて、信託財産に繰り入れる金額のことです。

(3)【信託報酬等】

信託報酬

信託報酬率（年率）＜純資産総額に対し＞	
当ファンド	0.506%（税抜0.46%）
投資対象とする投資信託証券	0.440%（税抜0.40%）程度
実質的な負担	0.946%（税抜0.86%）程度

- ・当ファンドの信託報酬は、計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に対し年0.506%（税抜0.46%）の率を乗じて得た額とします。

この値は当ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬を加重平均した概算値です。今後、投資対象とする投資信託証券の変更や実際の組入状況等によって±0.2%程度変動する可能性があります。

投資対象とする投資信託証券の信託報酬の詳細については、「第1 ファンドの状況 - 2 投資方針 - (2) 投資対象」 - 「投資対象とする投資信託証券の概要」をご覧ください。

信託報酬の配分

当ファンドの信託報酬の配分は、以下の通りとします。

	運用管理費用（信託報酬）の配分
委託会社	年率0.440%（税抜0.40%）
販売会社	年率0.033%（税抜0.03%）
受託会社	年率0.033%（税抜0.03%）

役務の内容	
委託会社	委託した資金の運用の対価
販売会社	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
受託会社	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価

当ファンドの投資顧問会社が受ける報酬は、上記委託会社が受ける信託報酬の中から支払います。

支払時期

信託報酬（信託報酬に係る消費税等相当額を含みます。）は、日々計上され、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日（当該日が休業日の場合は翌営業日）および毎計算期末（当該日が休業日の場合は翌営業日）または信託終了のときに、信託財産から支払います。

(4) 【その他の手数料等】

- ・当ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料等に要する費用および当ファンドの借入金利息。
- ・信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託会社の立替えた立替金の利息。
- ・信託財産の財務諸表の監査にかかる費用（消費税等相当額を含みます。）は、委託会社が当該費用にかかる金額をあらかじめ合理的に見積もったうえ、計算期間を通じて毎日、一定率または一定金額にて計上するものとします。
- ・委託会社による信託財産の管理、運営にかかる以下の費用は、計算期間を通じて、当該費用にかかる消費税等に相当する金額とともに、毎日計上するものとします。
 - 1．法律顧問、税務顧問への報酬
 - 2．有価証券届出書、有価証券報告書等法定提出書類の作成、印刷および提出等にかかる費用
 - 3．目論見書の作成、印刷および交付等にかかる費用
 - 4．運用報告書の作成、印刷および交付等にかかる費用
 - 5．信託約款の変更または信託契約の解約にかかる事項を記載した書面の作成、印刷および交付等にかかる費用
 - 6．この信託契約にかかる受益者に対して行う公告等にかかる費用
 - 7．その他信託事務の管理、運営にかかる費用
- ・上記の監査費用および運営にかかる費用とその消費税等に相当する金額は、信託報酬支払いのときに信託財産中から支払われます。

その他の手数料等については、資産規模および運用状況等により変動しますので、事前に料率、上限額等を表示することができません。

監査費用は、監査法人などに支払うファンドの監査に係る費用です。

上記費用の総額につきましては、投資家の皆様の保有される期間等により異なりますので、表示することができません。

税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。

（５）【課税上の取扱い】

課税上は、株式投資信託として取り扱われます。

個人受益者の場合

1) 収益分配金に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については配当所得として、20.315%（所得税15.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収（原則として、確定申告は不要です。）が行なわれます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用はありません。）のいずれかを選択することもできます。

2) 解約金および償還金に対する課税

解約時および償還時の差益（譲渡益）^{*}については譲渡所得として、20.315%（所得税15.315%および地方税5%）の税率による申告分離課税の対象となり、確定申告が必要となります。なお、源泉徴収ありの特定口座（源泉徴収選択口座）を選択している場合は、20.315%（所得税15.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収（原則として、確定申告は不要です。）が行なわれます。

* 解約価額および償還価額から取得費用（申込手数料および当該手数料に係る消費税等相当額を含みません。）を控除した利益

確定申告等により、解約時および償還時の差損（譲渡損失）については、上場株式等の譲渡益、上場株式等の配当等および特定公社債等の利子所得（申告分離課税を選択したものに限りません。）と損益通算が可能です。また、解約時および償還時の差益（譲渡益）、普通分配金および特定公社債等の利子所得（申告分離課税を選択したものに限りません。）については、上場株式等の譲渡損失と損益通算が可能です。

法人受益者の場合

1) 収益分配金、解約金、償還金に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに解約時および償還時の個別元本超過額については配当所得として、15.315%（所得税のみ）の税率による源泉徴収が行なわれます。源泉徴収された税金は、所有期間に応じて法人税から控除される場合があります。

2) 益金不算入制度の適用

原則として、益金不算入制度は適用されません。

買取請求による換金の際の課税については、販売会社にお問い合わせください。

個別元本

1) 各受益者の買付時の基準価額（申込手数料および当該手数料に係る消費税等相当額は含まれません。）が個別元本になります。

2) 受益者が同一ファンドを複数回お申込みの場合、1口当たりの個別元本は、申込口数で加重平均した値となります。ただし、個別元本は、複数支店で同一ファンドをお申込みの場合などにより把握方法が異なる場合がありますので、販売会社にお問い合わせください。

普通分配金と元本払戻金(特別分配金)

1) 収益分配金には課税扱いとなる「普通分配金」と非課税扱いとなる「元本払戻金(特別分配金)」(元本の一部払戻しに相当する部分)の区分があります。

2) 受益者が収益分配金を受け取る際

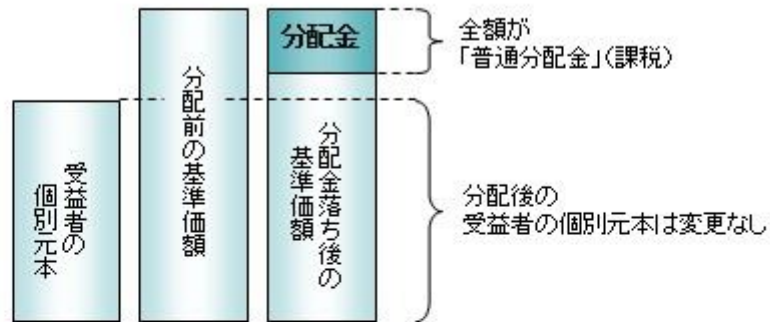
イ) 収益分配金落ち後の基準価額が、受益者の1口当たりの個別元本と同額かまたは上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となります。

ロ) 収益分配金落ち後の基準価額が、受益者の1口当たりの個別元本を下回っている場合には、収益分配金の範囲内でその下回っている部分の額が元本払戻金(特別分配金)となり、収益分配金から元本払戻金(特別分配金)を控除した金額が普通分配金となります。

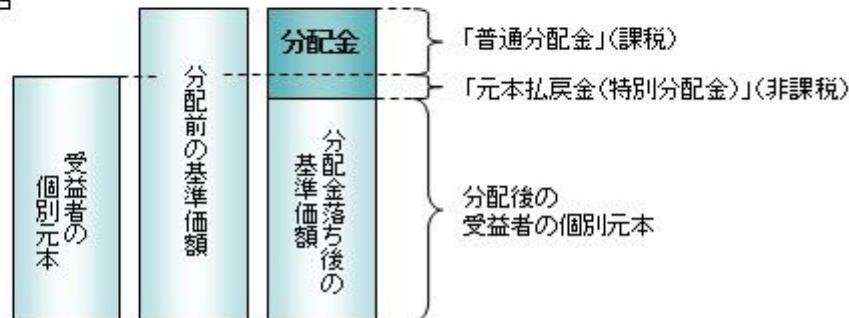
ハ) 収益分配金発生時に、その個別元本から元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の受益者の個別元本となります。

<分配金に関するイメージ図>

イ) の場合



ロ)、ハ) の場合



外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

上記は2019年11月末現在のものですので、税法が改正された場合などには、税率などの課税上の取扱いが変更になる場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家などにご確認されることをお勧めします。

5【運用状況】

以下の運用状況は2019年11月29日現在です。

- ・投資比率とはファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

(1)【投資状況】

資産の種類	国・地域	時価合計(円)	投資比率(%)
投資信託受益証券	日本	35,184,753,508	98.96
コール・ローン等、その他の資産(負債控除後)		369,254,665	1.04
合計(純資産総額)		35,554,008,173	100.00

(2)【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

イ. 評価額上位銘柄明細

国・地域	種類	銘柄名	数量又は額面総額	簿価単価(円)	簿価金額(円)	評価単価(円)	評価金額(円)	投資比率(%)
日本	投資信託受益証券	アライアンス・バーンスタイン・エマージング債券ファンドW(適格機関投資家専用)	8,375,508,549	1.1152	9,340,428,379	1.1254	9,425,797,321	26.51

日本	投資信託受益証券	ノムラF O F s用インデックスファンド・外国債券（適格機関投資家専用）	5,120,992,864	0.9741	4,988,394,635	0.9836	5,037,008,581	14.17
日本	投資信託受益証券	ノムラF O F s用インデックスファンド・新興国債券（適格機関投資家専用）	4,147,242,220	0.9768	4,051,030,347	0.9806	4,066,785,720	11.44
日本	投資信託受益証券	ニッセイ日本物価連動国債ファンド（適格機関投資家専用）	3,493,361,052	0.9858	3,444,104,661	0.9844	3,438,864,619	9.67
日本	投資信託受益証券	外国債券コア・ファンド（少数私募）	2,235,674,661	1.53	3,420,588,094	1.5335	3,428,407,092	9.64
日本	投資信託受益証券	ニッセイ国内債券アクティブファンド（適格機関投資家専用）	2,529,935,301	1.0721	2,712,357,034	1.0761	2,722,463,377	7.66
日本	投資信託受益証券	ノムラF O F s用インデックスファンド・国内債券（適格機関投資家専用）	2,232,332,081	1.0623	2,371,417,529	1.0655	2,378,549,832	6.69
日本	投資信託受益証券	グローバル変動金利債券ファンド（年1回分配型）円ヘッジありコース（適格機関投資家専用）	1,666,353,038	1.0456	1,742,341,311	1.0477	1,745,838,077	4.91
日本	投資信託受益証券	L M・米国債券ファンド（適格機関投資家専用）	1,292,965,852	1.0451	1,351,291,352	1.0575	1,367,311,388	3.85
日本	投資信託受益証券	ドイチェ欧州債券オープン（適格機関投資家専用）	655,832,239	0.9092	596,286,056	0.9163	600,939,080	1.69
日本	投資信託受益証券	M H A M豪ドル債券ファンド（適格機関投資家専用）	503,762,990	0.9111	458,982,014	0.9209	463,915,337	1.30
日本	投資信託受益証券	グローバル変動金利債券ファンド（年1回分配型）円ヘッジなしコース（適格機関投資家専用）	319,578,174	1.0204	326,099,612	1.0295	329,005,730	0.93
日本	投資信託受益証券	L M・グローバル債券ファンド（適格機関投資家専用）	189,373,926	0.9406	178,126,548	0.9498	179,867,354	0.51

ロ. 種類別の投資比率

種類	投資比率（％）
投資信託受益証券	98.96
合計	98.96

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

（3）【運用実績】

【純資産の推移】

期別	純資産総額（百万円）		1口当たり純資産額（円）	
	分配落ち	分配付き	分配落ち	分配付き
第1計算期間末 (2015年11月16日)	4,720	4,720	0.9502	0.9502
第2計算期間末 (2016年11月16日)	14,480	14,480	0.9173	0.9173
第3計算期間末 (2017年11月16日)	26,036	26,036	0.9885	0.9885

第4計算期間末	(2018年11月16日)	36,560	36,560	0.9542	0.9542
第5計算期間末	(2019年11月18日)	35,492	35,492	0.9767	0.9767
	2018年11月末日	36,551		0.9538	
	12月末日	36,894		0.9446	
	2019年 1月末日	37,871		0.9540	
	2月末日	34,568		0.9673	
	3月末日	35,433		0.9685	
	4月末日	36,115		0.9762	
	5月末日	36,507		0.9652	
	6月末日	37,110		0.9766	
	7月末日	37,110		0.9880	
	8月末日	36,075		0.9696	
	9月末日	35,997		0.9758	
	10月末日	35,818		0.9825	
	11月末日	35,554		0.9822	

【分配の推移】

期	期間	1口当たりの分配金（円）
第1期	2015年 2月27日～2015年11月16日	0.0000
第2期	2015年11月17日～2016年11月16日	0.0000
第3期	2016年11月17日～2017年11月16日	0.0000
第4期	2017年11月17日～2018年11月16日	0.0000
第5期	2018年11月17日～2019年11月18日	0.0000

【収益率の推移】

期	期間	収益率（％）
第1期	2015年 2月27日～2015年11月16日	4.98
第2期	2015年11月17日～2016年11月16日	3.46
第3期	2016年11月17日～2017年11月16日	7.76
第4期	2017年11月17日～2018年11月16日	3.47
第5期	2018年11月17日～2019年11月18日	2.36

(注)各計算期間の収益率は、計算期間末の基準価額（分配落ち）に当該計算期間の分配金を加算し、当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落ち、以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じた数です。

(4) 【設定及び解約の実績】

期	期間	設定口数（口）	解約口数（口）
---	----	---------	---------

第1期	2015年 2月27日 ~ 2015年11月16日	5,231,777,790	263,811,312
第2期	2015年11月17日 ~ 2016年11月16日	11,209,250,467	392,011,811
第3期	2016年11月17日 ~ 2017年11月16日	13,273,147,459	2,718,397,312
第4期	2017年11月17日 ~ 2018年11月16日	15,312,353,588	3,338,306,740
第5期	2018年11月17日 ~ 2019年11月18日	7,486,573,525	9,461,879,647

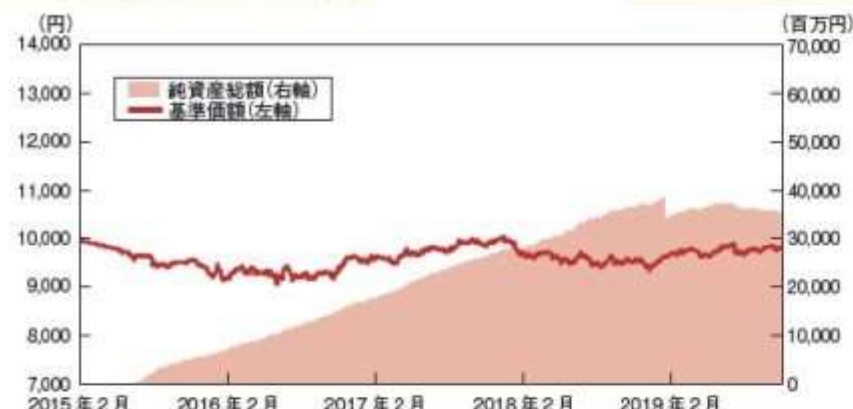
(注)第1計算期間の設定口数には、当初設定口数を含みます。

参考情報

運用実績(2019年11月29日現在)

「いちよしファンドラップ専用投資信託 内外債券」

基準価額・純資産の推移



*基準価額は、運用管理費用(信託報酬)控除後の1万口当たりの値です。

分配の推移

決算日	分配金
第1期 2015年11月16日	0円
第2期 2016年11月16日	0円
第3期 2017年11月16日	0円
第4期 2018年11月16日	0円
第5期 2019年11月18日	0円
設定来累計	0円

*分配金は、1万口当たり、税引前の金額です。

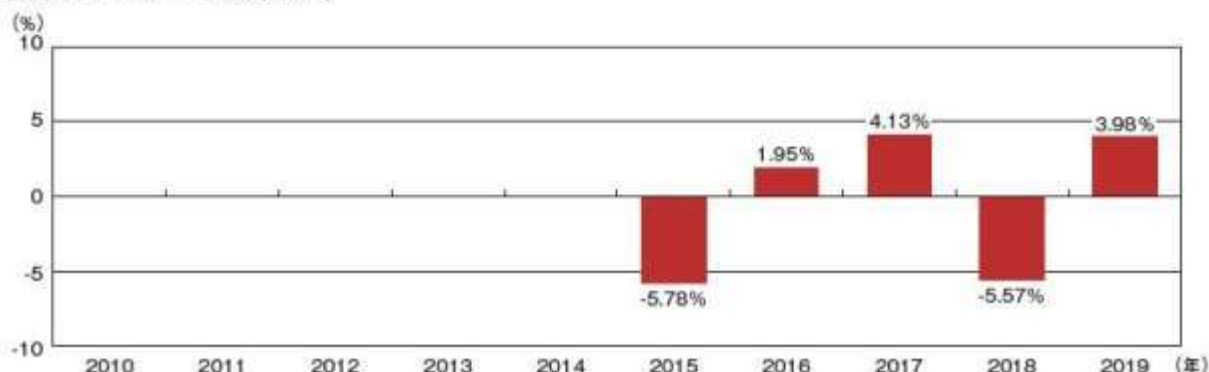
主要な資産の状況

アセットクラス	対象投資信託	組入比率(%)
国内債券	ノムラF0F0用インデックスファンド・国内債券(適格機関投資家専用)	24.0
	ニッセイ日本物価連動国債ファンド(適格機関投資家専用)	6.7
	ニッセイ国内債券アクティブファンド(適格機関投資家専用)	9.7
	ニッセイ国内債券アクティブファンド(適格機関投資家専用)	7.7
海外先進国債券	ノムラF0F0用インデックスファンド・外国債券(適格機関投資家専用)	37.0
	外国債券コア・ファンド(少人数私募)	14.2
	グローバル変動金利債券ファンド(年1回分配型)円ヘッジありコース(適格機関投資家専用)	9.6
	グローバル変動金利債券ファンド(年1回分配型)円ヘッジなしコース(適格機関投資家専用)	4.9
	LM・グローバル債券ファンド(適格機関投資家専用)	0.9
	LM・グローバル債券ファンド(適格機関投資家専用)	0.5
	LM・米国債券ファンド(適格機関投資家専用)	3.8
	ドイツ欧州債券オープン(適格機関投資家専用)	1.7
MHAM審ドル債券ファンド(適格機関投資家専用)	1.3	
新興国債券	ノムラF0F0用インデックスファンド・新興国債券(適格機関投資家専用)	37.9
	アライアンス・バーンスタイン・エマージング債券ファンドW(適格機関投資家専用)	11.4
現金等		26.5
	合計	100.0

*当ファンドが保有する投資信託の残高を投資先アセットクラス毎に集計したものです。
 *当ファンドの実質的な保有アセットクラス比率とは厳密には異なりますので、ご注意ください。
 *資産計上のタイミングにより、組入比率の合計が100%を超過することがあります。
 *小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合があります。

年間収益率の推移

※当ファンドにベンチマークはありません。



*2015年は設定日(2月27日)から12月末までの収益率です。2019年は11月末までの収益率です。

※ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。
 ※ファンドの運用状況は別途、委託会社のホームページで開示しています。

第2【管理及び運営】

1【申込(販売)手続等】

- (1) 申込方法
販売会社所定の方法でお申し込みください。
- (2) コースの選択
収益分配金の受取方法によって、＜分配金再投資コース（自動けいぞく投資コース）＞と＜分配金受取りコース（一般コース）＞の2通りがあります。ただし、販売会社によって取扱コースは異なります。
＜分配金再投資コース（自動けいぞく投資コース）＞
収益分配金を自動的に再投資するコースです。
＜分配金受取りコース（一般コース）＞
収益分配金を再投資せず、その都度受け取るコースです。
- (3) 申込みの受付
販売会社の営業日に受け付けます。
- (4) 取扱時間
原則として、午後3時までに、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分とします。なお、上記時刻を過ぎた場合は、翌営業日の取扱いとなります。
- (5) 取得申込不可日
販売会社の営業日であっても、取得申込日がニューヨーク証券取引所の休業日またはニューヨークの銀行休業日に該当する場合は、取得の申込みの受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- (6) 申込金額
取得申込受付日の翌々営業日の基準価額に取得申込口数を乗じて得た額に、申込手数料と当該手数料に係る消費税等相当額を加算した額です。
- (7) 申込単位
販売会社が定める単位とします。
詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- (8) 申込代金の支払い
取得申込者は、申込金額を販売会社が指定する日までに販売会社へお支払いください。
- (9) 受付の中止および取消
委託会社は、金融商品取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、取得の申込みの受付を中止すること、および既に受け付けた取得の申込みの受付を取り消すことができます。
金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号口に規定する外国金融商品市場をいいます。

2【換金（解約）手続等】

<解約請求による換金>

- (1) 解約の受付
販売会社の営業日に受け付けます。
- (2) 取扱時間
原則として、午後3時までに、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分とします。なお、上記時刻を過ぎた場合は、翌営業日の取扱いとなります。
- (3) 解約請求不可日
販売会社の営業日であっても、解約請求日がニューヨーク証券取引所の休業日またはニューヨークの銀行休業日に該当する場合は、解約請求の受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- (4) 解約制限
ファンドの規模および商品性格などにに基づき、運用上の支障をきたさないようにするため、大口の解約には受付時間制限および金額制限を行なう場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- (5) 解約価額
解約請求受付日の翌々営業日の基準価額から信託財産留保額（当該基準価額に0.1%の率を乗じて得た額）を控除した価額とします。
・基準価額につきましては、販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。

< 委託会社の照会先 >

いちよしアセットマネジメント株式会社

電話番号 03-6670-6711

午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

ホームページ アドレス <https://www.ichiyoshiam.jp/>

(6) 手取額

1口当たりの手取額は、解約価額から解約に係る所定の税金を差し引いた金額となります。
税法が改正された場合などには、税率などの課税上の取扱いが変更になる場合があります。
詳しくは、「課税上の取扱い」をご覧ください。

(7) 解約単位

1口単位

販売会社によっては、解約単位が異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

(8) 解約代金の支払い

原則として、解約請求受付日から起算して8営業日目からお支払いします。

(9) 受付の中止および取消

- 委託会社は、金融商品取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、解約請求の受付を中止すること、および既に受け付けた解約請求の受付を取り消すことができます。
- 解約請求の受付が中止された場合には、受益者は当該受付中止以前に行なった当日の解約請求を撤回できます。ただし、受益者がその解約請求を撤回しない場合には、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日（この計算日が解約請求を受け付けない日であるときは、この計算日以降の最初の解約請求を受け付けることができる日とします。）に解約請求を受け付けたものとして取り扱います。

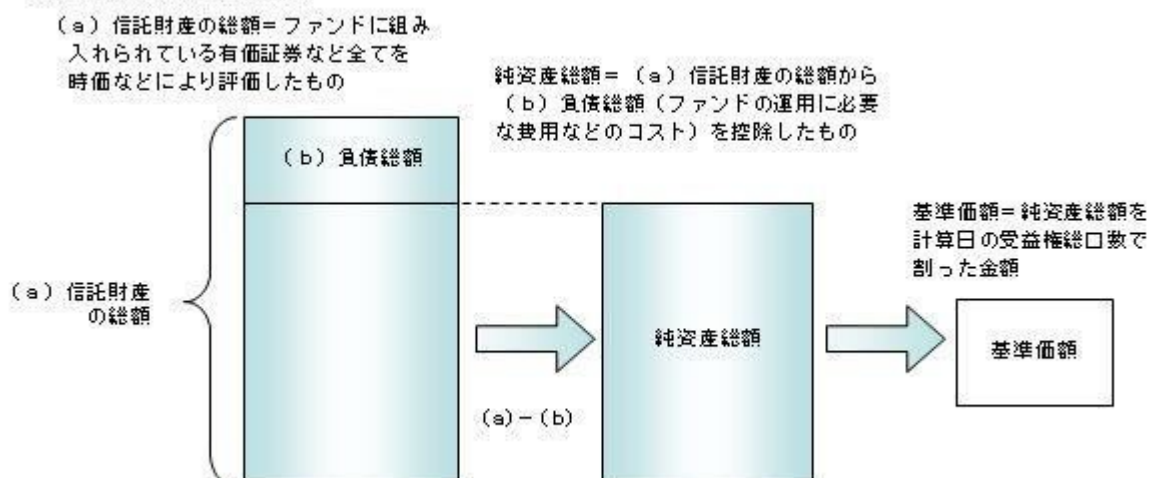
3【資産管理等の概要】

(1)【資産の評価】

基準価額の算出

- 基準価額は委託会社の営業日において日々算出されます。
- 基準価額とは、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券および借入有価証券を除きます。）を評価して得た信託財産の総額から負債総額を控除した金額（純資産総額）を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。なお、ファンドは1万口あたりに換算した価額で表示することがあります。

< 基準価額算出の流れ >



有価証券などの評価基準

- 信託財産に属する資産については、法令および一般社団法人投資信託協会規則に従って時価または一部償却原価法により評価します。

< 主な資産の評価方法 >

投資信託証券

原則として、基準価額計算日に知りうる直近の日の基準価額で評価します。

- ・外貨建資産（外国通貨表示の有価証券、預金その他の資産をいいます。）の円換算については、原則としてわが国における計算日の対顧客相場の仲値によって計算します。

基準価額の照会方法

販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。

<委託会社の照会先>

いちよしアセットマネジメント株式会社

電話番号 03-6670-6711

午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

ホームページ アドレス <https://www.ichiyoshiam.jp/>

(2)【保管】

該当事項はありません。

(3)【信託期間】

無期限とします（2015年2月27日設定）。ただし、約款の規定に基づき、信託契約を解約し、信託を終了させることがあります。

(4)【計算期間】

毎年11月17日から翌年11月16日までとします。ただし、各計算期間の末日が休業日のときはその翌営業日を計算期間の末日とし、その翌日より次の計算期間が開始されます。

(5)【その他】

信託の終了（繰上償還）

- 1) 委託会社は、次のいずれかの場合には、受託会社と合意の上、信託契約を解約し繰上償還させることができます。
 - イ) 受益者の解約によりファンドの純資産総額が10億円を下回ることとなった場合
 - ロ) 繰上償還することが受益者のために有利であると認めるとき
 - ハ) やむを得ない事情が発生したとき
 - 2) この場合、委託会社は書面による決議（以下「書面決議」といいます。）を行ないます。（後述の「書面決議」をご覧ください。）
 - 3) 委託会社は、次のいずれかの場合には、後述の「書面決議」の規定は適用せず、信託契約を解約し繰上償還させます。
 - イ) 信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合で、書面決議が困難な場合
 - ロ) 監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたとき
 - ハ) 委託会社が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したとき（監督官庁がこの信託契約に関する委託会社の業務を他の委託会社に引き継ぐことを命じたときは、書面決議で可決された場合、存続します。）
 - 二) 受託会社が委託会社の承諾を受けてその任務を辞任した場合またはその任務に違反するなどして解任された場合に、委託会社が新受託会社を選任できないとき
 - 4) 繰上償還を行なう際には、委託会社は、その旨をあらかじめ監督官庁に届け出ます。
- 償還金について
- ・償還金は、信託終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として償還日（償還日が休業日の場合は翌営業日）から起算して5営業日まで）から受益者に支払います。
 - ・償還金の支払いは、販売会社において行なわれます。

信託約款の変更など

- 1) 委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意の上、この信託約款を変更すること、または当ファンドと他のファンドとの併合（以下「併合」といいます。）を行なうことができます。信託約款の変更または併合を行なう際には、委託

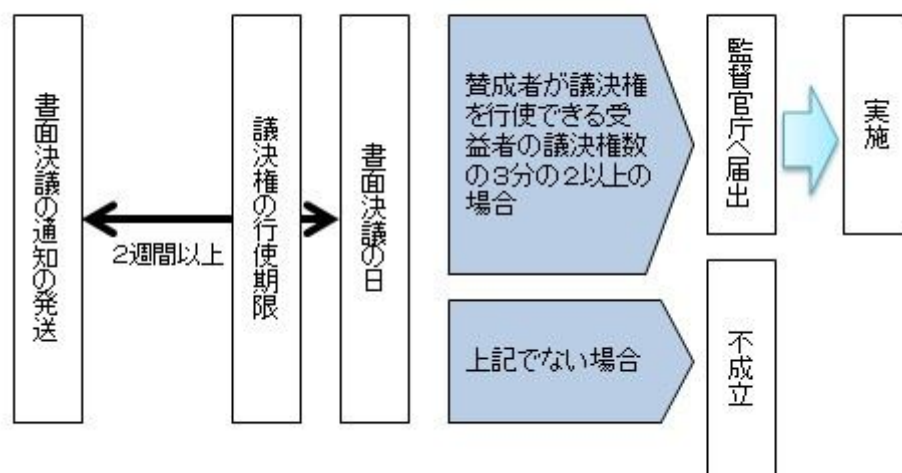
会社は、その旨および内容をあらかじめ監督官庁に届け出ます。

- 2) この変更事項のうち、その内容が重大なものまたは併合（受益者の利益に及ぼす影響が軽微なものを除きます。）については、書面決議を行いません。（後述の「書面決議」をご覧ください。）
- 3) 委託会社は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款を変更しようとするときは、後述の「書面決議」の規定を適用します。

書面決議

- 1) 繰上償還、信託約款の重大な変更または併合に対して、委託会社は書面決議を行いません。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびにその内容および理由などの事項を定め、決議の日の2週間前までに知っている受益者に対し書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を発送します。
- 2) 受益者は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行行使することができます。なお、知っている受益者が議決権を行行使しないときは、書面決議について賛成するものとみなします。
- 3) 書面決議は、議決権を行行使することができる受益者の議決権の3分の2以上にあたる多数をもって行いません。
- 4) 繰上償還、信託約款の重大な変更または併合に関する委託会社の提案に対して、すべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、書面決議を行いません。
- 5) 当ファンドにおいて併合の書面決議が可決された場合であっても、併合にかかる他のファンドにおいて併合の書面決議が否決された場合は、当該他のファンドとの併合を行なうことはできません。
- 6) 当ファンドは、受益者からの換金請求に対して、投資信託契約の一部を解約することにより応じることができるため、受益者の保護に欠けるおそれがないものとして、書面決議において反対した受益者からの買取請求は受け付けません。

<書面決議の主な流れ>



公告

公告は電子公告により行ない、委託会社のホームページに掲載します。

ホームページ アドレス <https://www.ichiyoshiam.jp/>

なお、やむを得ない事由によって公告を電子公告によって行なうことができない場合には、公告は日本経済新聞に掲載します。

運用報告書の作成

- ・委託会社は、毎期決算後および償還後に期中の運用経過、組入有価証券の内容および有価証券の売買状況などを記載した運用報告書を作成します。
- ・交付運用報告書は、原則として知っている受益者に対して交付されます。
- ・運用報告書（全体版）は、委託会社のホームページに掲載されます。ただし、受益者から運用報告書（全体版）の交付請求があった場合には、交付します。

ホームページ アドレス <https://www.ichiyoshiam.jp/>

関係法人との契約について

- ・販売会社との募集の取扱いなどに関する契約の有効期間は契約日より1年間とします。ただし、期間満了の3ヵ月前までに、販売会社、委託会社いずれからも別段の意思表示がないときは、自動的に1年間延長されるものとし、以後も同様とします。
- ・投資顧問会社との投資顧問契約は、当ファンドの信託期間終了まで存続します。ただし、投資顧問会

社、委託会社が重大な契約違反を行なったとき、その他契約を継続し難い重大な事由があるときは、相手方に通知をなすことにより契約を終了することができます。

他の受益者の氏名などの開示の請求の制限

受益者は、委託会社または受託会社に対し、次に掲げる事項の開示の請求を行なうことはできません。

- 1．他の受益者の氏名または名称および住所
- 2．他の受益者が有する受益権の内容

4【受益者の権利等】

受益者の有する主な権利は次の通りです。

(1) 収益分配金・償還金受領権

- ・受益者は、ファンドの収益分配金・償還金を、自己に帰属する受益権の口数に応じて受領する権利を有します。
- ・ただし、受益者が収益分配金については支払開始日から5年間、償還金については支払開始日から10年間請求を行なわない場合はその権利を失い、その金銭は委託会社に帰属します。

(2) 解約請求権

受益者は、自己に帰属する受益権につき販売会社を通じて、委託会社に解約の請求をすることができます。

(3) 帳簿閲覧権

受益者は、委託会社に対し、その営業時間内にファンドの信託財産に関する帳簿書類の閲覧を請求することができます。

第3【ファンドの経理状況】

（1）当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づき作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

（2）当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第5期計算期間（2018年11月17日から2019年11月18日まで）の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による監査を受けております。

1【財務諸表】

【いちよしファンドラップ専用投資信託 内外債券】

(1) 【貸借対照表】

(単位：円)

	第4期 2018年11月16日現在	第5期 2019年11月18日現在
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	606,584,705	418,322,936
投資信託受益証券	36,136,688,177	35,103,112,032
未収入金	-	191,624,731
流動資産合計	36,743,272,882	35,713,059,699
資産合計	36,743,272,882	35,713,059,699
負債の部		
流動負債		
未払金	35,332,916	5,395,092
未払解約金	59,359,806	117,941,960
未払受託者報酬	5,495,829	6,038,263
未払委託者報酬	78,773,443	86,548,304
未払利息	1,661	1,146
その他未払費用	3,773,179	4,138,507
流動負債合計	182,736,834	220,063,272
負債合計	182,736,834	220,063,272
純資産の部		
元本等		
元本	38,314,002,129	36,338,696,007
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	1,753,466,081	845,699,580
（分配準備積立金）	864,369,704	680,577,528
元本等合計	36,560,536,048	35,492,996,427
純資産合計	36,560,536,048	35,492,996,427
負債純資産合計	36,743,272,882	35,713,059,699

（２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第4期		第5期	
	自	2017年11月17日	自	2018年11月17日
	至	2018年11月16日	至	2019年11月18日
営業収益				
有価証券売買等損益		875,985,571		1,043,895,713
営業収益合計		875,985,571		1,043,895,713
営業費用				
支払利息		600,828		586,755
受託者報酬		10,016,263		11,872,971
委託者報酬		143,566,339		170,179,031
その他費用		3,773,179		4,138,507
営業費用合計		157,956,609		186,777,264
営業利益又は営業損失（ ）		1,033,942,180		857,118,449
経常利益又は経常損失（ ）		1,033,942,180		857,118,449
当期純利益又は当期純損失（ ）		1,033,942,180		857,118,449
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）		67,127,704		101,847,389
期首剰余金又は期首欠損金（ ）		303,876,959		1,753,466,081
剰余金増加額又は欠損金減少額		52,046,724		435,319,494
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		52,046,724		435,319,494
剰余金減少額又は欠損金増加額		534,821,370		282,824,053
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		534,821,370		282,824,053
分配金		-		-
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		1,753,466,081		845,699,580

(3)【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、投資信託受益証券の基準価額で評価しております。
2. 収益及び費用の計上基準	有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	当ファンドの計算期間は原則として、毎年11月17日から翌年11月16日までとなっております。ただし、各計算期間終了日に該当する日（以下「該当日」といいます。）が休業日のとき、各計算期間終了日は、該当日以降の営業日である日のうち、該当日に最も近い日とし、その翌日より次の計算期間が始まるものとしたしますので、当計算期間は2018年11月17日から2019年11月18日までとなっております。

(貸借対照表に関する注記)

第4期 2018年11月16日現在	第5期 2019年11月18日現在
1. 計算期間の末日における受益権の総数 38,314,002,129口	1. 計算期間の末日における受益権の総数 36,338,696,007口
2. 投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第1項第10号に規定する額 元本の欠損 1,753,466,081円	2. 投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第1項第10号に規定する額 元本の欠損 845,699,580円
3. 計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 0.9542円 (10,000口当たり純資産額) (9,542円)	3. 計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 0.9767円 (10,000口当たり純資産額) (9,767円)

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

第4期 自 2017年11月17日 至 2018年11月16日	第5期 自 2018年11月17日 至 2019年11月18日
分配金の計算過程	分配金の計算過程
A 費用控除後の配当等収益額 0円	A 費用控除後の配当等収益額 0円
B 費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額 0円	B 費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額 3,340,809円
C 収益調整金額 530,923,553円	C 収益調整金額 651,438,704円
D 分配準備積立金額 864,369,704円	D 分配準備積立金額 677,236,719円
E 当ファンドの分配対象収益額 1,395,293,257円	E 当ファンドの分配対象収益額 1,332,016,232円
F 当ファンドの期末残存口数 38,314,002,129口	F 当ファンドの期末残存口数 36,338,696,007口
G 10,000口当たり収益分配対象額 364円	G 10,000口当たり収益分配対象額 366円

第4期 自 2017年11月17日 至 2018年11月16日		第5期 自 2018年11月17日 至 2019年11月18日	
H 10,000口当たり分配金額	0円	H 10,000口当たり分配金額	0円
I 収益分配金金額	0円	I 収益分配金金額	0円

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

項 目	第4期 自 2017年11月17日 至 2018年11月16日	第5期 自 2018年11月17日 至 2019年11月18日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する運用の基本方針に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。	同左
2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが投資する金融商品は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。 当ファンドが保有する有価証券は、（有価証券に関する注記）の売買目的有価証券に記載しております。これらは、価格変動リスク等の市場リスク、信用リスク及び流動性リスクに晒されております。	同左
3. 金融商品に係るリスクの管理体制	コンプライアンス部門において、投資対象の各種リスクのモニタリング、管理等を行い、運用部門への指示、牽制を行っております。 また、社内の委員会において、各種リスクの評価、モニタリング結果の報告を行い、必要に応じ運用部門へ改善指示を行います。	同左

金融商品の時価等に関する事項

項 目	第4期 2018年11月16日現在	第5期 2019年11月18日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表計上額は期末の時価で計上しているため、その差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	有価証券 （重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。 コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務	有価証券 同左 コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務

項目	第4期 2018年11月16日現在	第5期 2019年11月18日現在
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>これらは短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。</p> <p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。</p>	<p>同左</p> <p>同左</p>

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種類	第4期 自 2017年11月17日 至 2018年11月16日	第5期 自 2018年11月17日 至 2019年11月18日
	当計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)	当計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)
投資信託受益証券	765,561,590	1,068,532,882
合計	765,561,590	1,068,532,882

（デリバティブ取引等に関する注記）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

第4期 自 2017年11月17日 至 2018年11月16日	第5期 自 2018年11月17日 至 2019年11月18日
市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はございません。	同左

（重要な後発事象に関する注記）

該当事項はありません。

（元本の移動）

項目	第4期	第5期
	自 2017年11月17日 至 2018年11月16日	自 2018年11月17日 至 2019年11月18日
投資信託財産に係る元本の状況		
期首元本額	26,339,955,281円	38,314,002,129円
期中追加設定元本額	15,312,353,588円	7,486,573,525円
期中一部解約元本額	3,338,306,740円	9,461,879,647円

（４）【附属明細表】

第１ 有価証券明細表（2019年11月18日現在）

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

種類	銘柄	口数（口）	評価額（円）	備考
投資信託受益証券	MHAM豪ドル債券ファンド（適格機関投資家専用）	505,515,964	460,575,594	
	ノムラF O F s用インデックスファンド・国内債券（適格機関投資家専用）	2,239,347,881	2,378,859,253	
	ノムラF O F s用インデックスファンド・外国債券（適格機関投資家専用）	5,139,053,956	5,005,952,458	
	ノムラF O F s用インデックスファンド・新興国債券（適格機関投資家専用）	4,164,290,807	4,067,679,260	
	ドイチェ欧州債券オープン（適格機関投資家専用）	658,134,799	598,376,159	
	ニッセイ国内債券アクティブファンド（適格機関投資家専用）	2,537,869,291	2,720,849,666	
	ニッセイ日本物価連動国債ファンド（適格機関投資家専用）	3,504,146,000	3,454,737,541	
	グローバル変動金利債券ファンド（年1回分配型）円ヘッジありコース（適格機関投資家専用）	1,672,240,595	1,748,494,766	
	グローバル変動金利債券ファンド（年1回分配型）円ヘッジなしコース（適格機関投資家専用）	320,663,262	327,204,792	
	アライアンス・パーンスタイン・エマージング債券ファンドW（適格機関投資家専用）	8,404,589,569	9,372,798,287	
	L M・グローバル債券ファンド（適格機関投資家専用）	190,026,623	178,739,041	
	L M・米国債券ファンド（適格機関投資家専用）	1,297,439,837	1,355,954,373	
	外国債券コア・ファンド（少人数私募）	2,243,719,505	3,432,890,842	
合計		32,877,038,089	35,103,112,032	

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額及び時価の状況表

該当事項はありません。

2【ファンドの現況】

以下のファンドの現況は2019年11月29日現在です。

【純資産額計算書】

資産総額	35,690,688,161円
負債総額	136,679,988円
純資産総額（ - ）	35,554,008,173円
発行済口数	36,198,266,289口
1口当たり純資産額（ / ）	0.9822円

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

（1）名義書換

受益者は、委託会社がやむを得ない事情などにより受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求を行なわないものとします。

（2）受益者に対する特典

該当事項はありません。

（3）譲渡制限の内容

譲渡制限はありません。

受益権の譲渡

- ・受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。
- ・前述の申請のある場合には、振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社債、株式等の振替に関する法律の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行なわれるよう通知するものとします。
- ・前述の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合などにおいて、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

（4）受益証券の再発行

受益者は、委託会社がやむを得ない事情などにより受益証券を発行する場合を除き、受益証券の再発行の請求を行なわないものとします。

（5）受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議のうえ、社債、株式等の振替に関する法律に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

（6）質権口記載または記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、解約請求の受付、解約金および償還金の支払いなどについては、約款の規定によるほか、民法その他の法令などにしたがって取り扱われます。

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

(1) 資本金の額

2019年11月末現在	資本金	490,000,000円
	発行可能株式総数	16,000株
	発行済株式総数	15,200株

過去5年間における主な資本金の増減
該当事項はありません。

(2) 委託会社の機構（2019年11月末現在）

取締役会

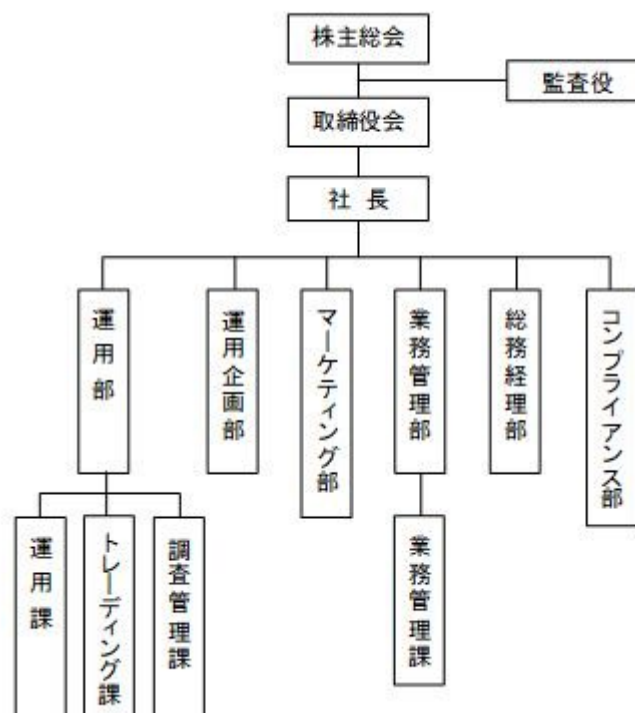
8名以内の取締役が、株主総会において選任されます。取締役の選任は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数の賛成をもってこれを行い、累積投票によらないものとします。

取締役の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結のときまでとし、補欠または増員により選任された取締役の任期は、他の在任取締役の任期の満了すべき時までとします。

取締役会はその決議により、取締役の中から代表取締役を選定し、必要に応じて取締役会長1名、取締役社長1名、取締役副社長、専務取締役及び常務取締役若干名を選定することができます。

取締役会は、法令または定款に定める事項、その他当社の重要な業務の執行について決定し、その決議は取締役の過半数が出席し、出席した取締役の過半数をもってこれを行います。

組織図



委託会社の運用体制

1) 運用方針等の決定

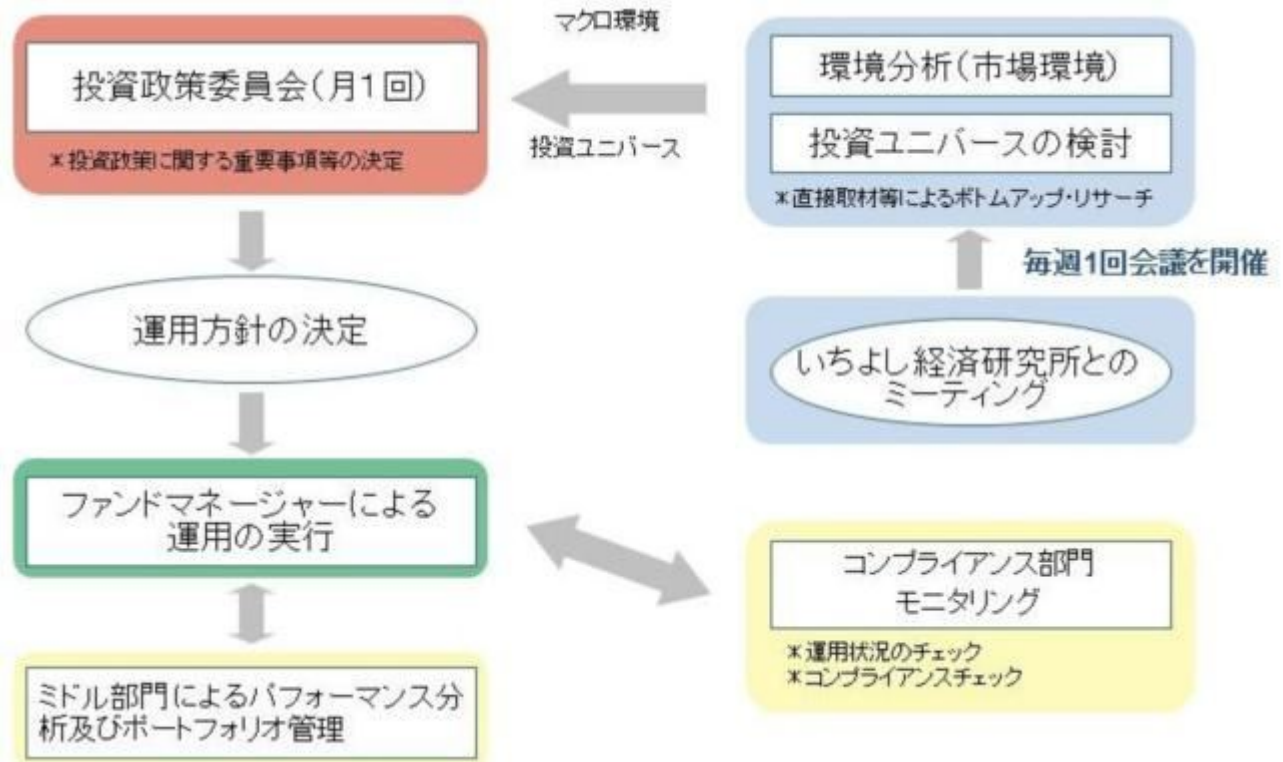
ファンドマネージャーが、マクロ経済環境、市場環境の分析を行います。投資ユニバース組入れ銘柄については、主としていちよし経済研究所のユニバース銘柄の中より検討・協議を行います。協議を元に月1回の投資政策委員会において運用方針を決定し、月次運用計画を策定いたします。

2) 運用の実行

ファンドマネージャーは月次運用計画に基づき、ファンドのポートフォリオを構築し、日々のモニタリングによりポートフォリオ管理を行いながら売買の執行を行います。

3) 検証

ミドル部門によるパフォーマンス分析、ポートフォリオ管理を行なう他、コンプライアンス担当者により、日々の売買状況、評価結果、運用リスク状況、法令諸規則、運用ガイドライン、約款等の遵守状況についてモニタリングが行なわれます。異常があった場合、直ちに運用部門に状況確認がなされ、対応結果の報告を行います。運用状況については、毎月の投資政策委員会において報告が行なわれます。



2【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行なうとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行なっています。また「金融商品取引法」に定める投資助言業務を行なっています。

2019年11月末現在、委託会社が運用する証券投資信託は以下のとおりです（ただし、親投資信託を除きます。）。

ファンドの種類	本数	純資産総額（百万円）
公募証券投資信託	9	207,408
追加型株式投資信託	9	207,408
単位型株式投資信託	0	0
私募証券投資信託	15	70,984
合計	24	278,392

3【委託会社等の経理状況】

1. 財務諸表の作成方法について

委託会社であるいちよしアセットマネジメント株式会社（以下「委託会社」という。）の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）第2条の規定により、財務諸表等規則及び「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づいて作成しております。

記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

2. 中間財務諸表の作成方法について

委託会社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号、以下、「中間財務諸表規則」という。）並びに同規則第38条及び第57条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づいて作成しております。

記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

3. 監査証明について

委託会社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第33期事業年度（2018年4月1日から2019年3月31日まで）の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

また、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第34期事業年度の中間会計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）の中間財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人により中間監査を受けております。

（1）【貸借対照表】

（単位：千円）

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金・預金	1,586,173	1,188,741
前払費用	14,494	12,732
立替金	19,417	15,772
未収委託者報酬	712,758	676,291
未収運用受託報酬	99,338	72,305
未収投資助言報酬	42,317	26,560
流動資産合計	2,474,500	1,992,403
固定資産		
有形固定資産		
建物	5,133	21,916
器具・備品	3,479	10,071
有形固定資産合計	1 8,612	1 31,988
無形固定資産		
ソフトウェア	3,557	2,821
商標権	674	598
無形固定資産合計	4,232	3,419
投資その他の資産		
投資有価証券	57,812	241,888
長期差入保証金	50,740	34,694
長期前払費用	175	129
その他の投資	5,807	5,853
繰延税金資産	19,684	14,893
投資その他の資産合計	134,219	297,459
固定資産合計	147,063	332,867
資産合計	2,621,564	2,325,270
負債の部		
流動負債		
前受収益	2,577	-
預り金	3,185	1,566

未払金	304,292	261,173
未払手数料	2 290,981	2 252,241
その他未払金	13,310	8,932
未払費用	24,741	34,086
未払法人税等	284,442	207,241
未払消費税等	68,608	28,533
賞与引当金	8,263	5,547
流動負債合計	696,111	538,148
固定負債		
固定負債合計	-	-
負債合計	696,111	538,148
純資産の部		
株主資本		
資本金	490,000	490,000
利益準備金	-	98,800
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	1,431,766	1,197,704
株主資本合計	1,921,766	1,786,504
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3,686	617
純資産合計	1,925,452	1,787,121
負債・純資産合計	2,621,564	2,325,270

(2) 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
営業収益		
委託者報酬	2,228,273	2,673,542
運用受託報酬	283,830	251,375
投資助言報酬	57,961	104,720
営業収益合計	2,570,065	3,029,639
営業費用		
支払手数料	1 1,015,012	1 1,208,325
広告宣伝費	14,326	14,925
調査費	142,113	204,643
情報機器関連費	74,099	110,355
営業資料費	11,418	19,328
委託費	56,595	74,959
事務委託費	43,802	55,245
器具備品費	1,682	1,945
営業雑経費	4,546	6,358
通信運送費	2,862	3,546
協会費	1,631	2,498
諸会費	12	90
会議費	22	105
教育研究費	17	117

営業費用合計	1,221,483	1,491,442
一般管理費		
給料	236,246	260,870
役員報酬	34,718	35,350
従業員給料	158,583	181,637
その他報酬給料	5,550	5,000
賞与引当金繰入	8,263	5,547
福利厚生費	29,131	33,336
交際費	1,324	2,502
旅費交通費	6,195	5,870
租税公課	16,718	20,437
不動産賃借料	17,144	37,088
その他不動産関係費	3,474	11,535
新聞書籍費	531	604
消耗品費	153	231
水道光熱費	1,570	1,535
雑費	922	968
減価償却費	4,961	8,508
一般管理費合計	289,241	350,154
営業利益	1,059,339	1,188,042
営業外収益		
雑収入	370	250
営業外費用		
雑損失	-	5
経常利益	1,059,709	1,188,287
特別利益		
投資有価証券売却益	-	32,142
特別損失		
固定資産除却損	690	-
特別損失合計	690	-
税引前当期純利益	1,059,019	1,220,429
法人税、住民税及び事業税	331,536	361,546
法人税等調整額	13,269	6,145
法人税等合計	318,266	367,691
当期純利益	740,752	852,737

(3) 【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				評価・換算 差額等 その他 有価証券 評価差額金	純資産 合計
	資本金	利益 準備金	利益 剰余金	株主資本 合計		
当期首残高	490,000	0	691,014	1,181,014	143	1,180,871
当期変動額						
剰余金の配当						
当期純利益			740,752	740,752		740,752

株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					3,829	3,829
当期変動額合計	-	-	740,752	740,752	3,829	744,581
当期末残高	490,000	0	1,431,766	1,921,766	3,686	1,925,452

当事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				評価・換算 差額等	純資産 合計
	資本金	利益 準備金	利益 剰余金	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	
当期首残高	490,000	0	1,431,766	1,921,766	3,686	1,925,452
当期変動額						
剰余金の配当		98,800	1,086,800	988,000		988,000
当期純利益			852,737	852,737		852,737
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					3,068	3,068
当期変動額合計	-	98,800	234,062	135,262	3,068	138,331
当期末残高	490,000	98,800	1,197,704	1,786,504	617	1,787,121

[重要な会計方針]

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法を採用しております。

（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

建物附属設備及び構築物

・2007年4月1日から2016年3月31日までに取得したもの

定率法

・2016年4月1日以降に取得したもの

定額法

上記以外

・2007年3月31日以前に取得したもの

旧定率法

・2007年4月1日以降に取得したもの

定率法

なお、主な耐用年数は、以下のとおりであります。

建物附属設備及び構築物

15年

器具・備品

4年～20年

(2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、ソフトウェア（自社利用分）については、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

3. 引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支払いに備えるため、当社所定の計算方法により算出した支払見込額を計上し

ております。

4. 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式を採用しております。

（表示方法の変更）

（「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更）

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日。以下「税効果会計基準一部改正」という。）を当事業年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しました。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」21,310千円及び「固定負債」の「繰延税金負債」1,626千円を「投資その他の資産」の「繰延税金資産」19,684千円に含めて表示しております。

[注記事項]

（貸借対照表関係）

（単位：千円）

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
1 有形固定資産の減価償却累計額	12,154	19,850
2 関係会社に対する資産及び負債		
未払手数料	283,342	246,439
前払費用	1,288	-

（損益計算書関係）

（単位：千円）

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
1 関係会社に対する取引の主なもの 支払手数料	982,739	1,174,554

（株主資本等変動計算書関係）

1. 発行済株式数に関する事項

前事業年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式（株）	15,200	-	-	15,200

当事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式（株）	15,200	-	-	15,200

2. 配当に関する事項

前事業年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

（1）配当金支払額

決議	株式の種類	配当金総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
----	-------	----------------	-----------------	-----	-------

2018年9月28日 取締役会	普通株式	988	65,000	2018年9月30日	2018年10月19日
--------------------	------	-----	--------	------------	-------------

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2019年6月21日定 時株主総会	普通 株式	利益剰余金	304	20,000	2019年3月31日	2019年6月25日

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用について財務内容の健全性を損なうことのないよう、主に安全性の高い金融資産で運用する方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である未収委託者報酬、未収運用受託報酬及び未収投資助言報酬は、当該信託財産の内容を把握しており、当該営業債権の回収にかかるリスクは僅少であります。

資金調達にかかる流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理については、総務経理部が適時資金管理を行うとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（（注2）をご参照ください）。

前事業年度（2018年3月31日）

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金・預金	1,586,173	1,586,173	-
(2) 未収委託者報酬	712,758	712,758	-
(3) 未収運用受託報酬	99,338	99,338	-
(4) 未収投資助言報酬	42,317	42,317	-
資産計	2,440,587	2,440,587	-
(5) 未払手数料	290,981	290,981	-
(6) 未払法人税等	284,442	284,442	-
負債計	575,424	575,424	-

当事業年度（2019年3月31日）

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金・預金	1,188,741	1,188,741	-
(2) 未収委託者報酬	676,291	676,291	-
(3) 未収運用受託報酬	72,305	72,305	-
(4) 未収投資助言報酬	26,560	26,560	-
資産計	1,963,898	1,963,898	-
(5) 未払手数料	252,241	252,241	-
(6) 未払法人税等	207,241	207,241	-
負債計	459,482	459,482	-

(注1) 金融商品の時価の算定方法

資産

(1) 現金・預金、(2) 未収委託者報酬、(3) 未収運用受託報酬、(4) 未収投資助言報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

負債

(5) 未払手数料、(6) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
非上場株式	2,500	-

非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難とみとめられるため、上表には含めておりません。

(注3) 金銭債権の決算日後の償還予定額

前事業年度(2018年3月31日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年以内
(1) 預金	1,586,143	-	-	-
(2) 未収委託者報酬	712,758	-	-	-
(3) 未収運用受託報酬	99,338	-	-	-
(4) 未収投資助言報酬	42,317	-	-	-
合計	2,440,558	-	-	-

当事業年度(2019年3月31日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年以内
(1) 預金	1,188,630	-	-	-
(2) 未収委託者報酬	676,291	-	-	-
(3) 未収運用受託報酬	72,305	-	-	-
(4) 未収投資助言報酬	26,560	-	-	-
合計	1,963,787	-	-	-

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得価額 (千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が 取得価額を超えるもの 証券投資信託	55,312	50,000	5,312
小計	55,312	50,000	5,312
貸借対照表計上額が 取得価額を超えないもの 証券投資信託	-	-	-
小計	-	-	-
合計	55,312	50,000	5,312

(注) 非上場株式(貸借対照表計上額 2,500千円)については、市場価額がなく、時価を把握することが極めて

て困難と認められることから、上表には含めておりません。

当事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得価額 (千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が 取得価額を超えるもの 証券投資信託	113,178	110,000	3,178
小計	113,178	110,000	3,178
貸借対照表計上額が 取得価額を超えないもの 証券投資信託	128,710	131,000	2,290
小計	128,710	131,000	2,290
合計	241,888	241,000	888

2. 事業年度中に売却したその他有価証券

前事業年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

区分	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	34	32	-
債券	-	-	-
その他	-	-	-
合計	34	32	-

(税効果会計関連)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	4,704	2,923
未払社会保険料	631	473
未払事業税	14,001	10,804
資産除去債務	1,031	964
繰延資産償却限度超過額	255	-
減価償却の償却超過額	686	-
繰延税金資産 小計	21,310	15,164
評価性引当額	-	-
繰延税金資産 合計	21,310	15,164
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	1,626	271
繰延税金負債 合計	1,626	271
繰延税金資産の純額	19,684	14,893

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が、前事業年度、当事業年度ともに法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

（資産除去債務関係）

前事業年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

重要性がないため、記載を省略しております。

当事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

重要性がないため、記載を省略しております。

（セグメント情報等）

〔セグメント情報〕

前事業年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

当社は、投信投資顧問業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

当社は、投信投資顧問業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

〔関連情報〕

1 サービスごとの情報

前事業年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

投信投資顧問業及び関連サービスに関する外部顧客への営業収益が、損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

当事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

投信投資顧問業及び関連サービスに関する外部顧客への営業収益が、損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 営業収益

前事業年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

本邦の外部顧客への営業収益が、損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

当事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

本邦の外部顧客への営業収益が、損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

前事業年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

本邦に所有している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

当事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

本邦に所有している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

前事業年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

外部顧客への売上のうち損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載ありません。

当事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

外部顧客への売上のうち損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載ありません。

〔報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報〕

前事業年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

該当事項はありません。

〔報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報〕

前事業年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

該当事項はありません。

〔報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報〕

前事業年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

該当事項はありません。

（関連当事者情報）

1. 関連当事者との取引

親会社及び法人主要株主等

前事業年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金 (百万円)	事業の内容 又は 職業	議決権等の 所有 (被所有者) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引 金額 (千円)	科目	期末 残高 (千円)
親会社	いちよし証券株式会社	東京都中央区	14,577	証券業	被所有 直接95.07% 間接1.97%	当社投資信託の募集の取扱及び売出の取扱ならびに投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払い 1	963,952	未払手数料	283,342
						特定金銭信託、及び年金信託に関する投資一任契約の代理に関する業務	代理業務にかかる報酬の支払い 2	18,786	前払費用	1,288
						役員の兼任 出向者の受入	出向者負担金の支払い 2	146,155	-	-

（注）取引条件及び取引条件の決定方針等

- 1 投資信託に係る事務代行手数料の支払いについては、商品性等を勘案し総合的に決定しております。
- 2 代理業務にかかる報酬の支払い及び、出向者負担金の支払いについては、いちよし証券株式会社と協議して決定しております。

当事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金 (百万円)	事業の内容 又は 職業	議決権等の 所有 (被所有者) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引 金額 (千円)	科目	期末 残高 (千円)
----	------------	-----	--------------	-------------------	--------------------------------	---------------	-----------	------------------	----	------------------

親会社	いちよし証券株式会社	東京都中央区	14,577	証券業	被所有 直接97.04% 間接 -	当社投資信託の募集の取扱及び売出の取扱ならびに投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払い 1	1,145,965	未払手数料	246,210
						特定金銭信託、及び年金信託に関する投資一任契約の代理に関する業務	代理業務にかかる報酬の支払い 2	28,588	前払費用	-
						役員の兼任 出向者の受入	出向者負担金の支払い 2	179,829	-	-

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

- 投資信託に係る事務代行手数料の支払いについては、商品性等を勘案し総合的に決定しております。
- 代理業務にかかる報酬の支払い及び、出向者負担金の支払いについては、いちよし証券株式会社と協議して決定しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

親会社情報

いちよし証券株式会社（東京証券取引所に上場）

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
1株当たり純資産額	126,674円51銭	117,573円78銭
1株当たり当期純利益金額	48,733円70銭	56,101円16銭

(注) なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないために記載しておりません。

1株当たり純資産額の算定上の基礎

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	1,925,452	1,787,121
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数(株)	15,200	15,200

1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
当期純利益(千円)	740,752	852,737
普通株式の期中平均株式数(株)	15,200	15,200

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

中間財務諸表

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	当中間会計期間末 (2019年9月30日)
資産の部	
流動資産	
現金・預金	1,211,875
前払費用	22,576
立替金	18,852
未収委託者報酬	761,496
未収運用受託報酬	72,736
未収投資助言報酬	23,476
流動資産合計	2,111,013
固定資産	
有形固定資産	
建物	21,127
器具・備品	8,857
有形固定資産合計	1 29,985
無形固定資産	
ソフトウェア	2,453
商標権	560
無形固定資産合計	3,013
投資その他の資産	
投資有価証券	239,652
長期差入保証金	32,594
繰延税金資産	13,557
長期前払費用	129
その他投資等	5,853
投資その他の資産合計	291,787
固定資産合計	324,785
資産合計	2,435,799
負債の部	
流動負債	
前受収益	21,878
預り金	2,765
未払金	310,055
未払手数料	304,337
その他未払金	5,718
未払費用	54,234
未払法人税等	172,462
未払消費税等	17,247
賞与引当金	5,237
流動負債合計	583,881
固定負債	
固定負債合計	-
負債合計	583,881
純資産の部	
株主資本	
資本金	490,000
利益剰余金	

利益準備金	122,500
その他利益剰余金	
繰越利益剰余金	1,240,353
利益剰余金合計	1,362,853
株主資本合計	1,852,853
その他有価証券評価差額金	936
純資産合計	1,851,917
負債・純資産合計	2,435,799

(2) 中間損益計算書

(単位：千円)

	当中間会計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
営業収益	
委託者報酬	1,216,591
運用受託報酬	123,510
投資助言報酬	36,841
営業収益合計	1,376,942
営業費用及び一般管理費	1,841,563
営業利益	535,378
営業外収益	88
営業外費用	-
経常利益	535,466
特別利益	-
特別損失	-
税引前中間純利益	535,466
法人税、住民税及び事業税	163,098
法人税等調整額	2,018
中間純利益	370,349

(3) 中間株主資本等変動計算書

当中間会計期間（自 2019年4月1日 至 2019年9月30日）

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	利益剰余金			株主資本 合計
		利益準備金	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益 剰余金 合計	
当期首残高	490,000	98,800	1,197,704	1,296,504	1,786,504
当中間期変動額					
剰余金の配当			304,000	304,000	304,000
剰余金の配当に伴う 利益準備金積立の積立		23,700	23,700	-	-
中間純利益			370,349	370,349	370,349
株主資本以外の項目 の当中間期変動額(純額)					
当中間期変動額合計	-	23,700	42,649	66,349	66,349
当中間期末残高	490,000	122,500	1,240,353	1,362,853	1,852,853

	評価・換算差額等	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	
当期首残高	617	1,787,121
当中間期変動額		
剰余金の配当		304,000
剰余金の配当に伴う 利益準備金積立の積立		-
中間純利益		370,349
株主資本以外の項目 の当中間期変動額(純額)	1,553	1,553
当中間期変動額合計	1,553	64,796
当中間期末残高	936	1,851,917

重要な会計方針に係る事項

1．有価証券の評価基準及び評価方法

(1) その他有価証券

時価のあるもの 中間決算日の市場価格等に基づく時価法を採用しております。（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）

時価のないもの 移動平均法による原価法を採用しております。

2．固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

建物附属設備及び構築物

- ・ 2007年4月1日から2016年3月31日までに取得したもの 定率法
- ・ 2016年4月1日以降に取得したもの 定額法

上記以外

- ・ 2007年3月31日以前に取得したもの 旧定率法
- ・ 2007年4月1日以降に取得したもの 定率法

なお、主な耐用年数は、以下のとおりであります。

建物附属設備及び構築物	15年
器具・備品	4年～20年

(2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、ソフトウェア（自社利用分）については、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

3．引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支払いに備えるため、当社所定の計算方法により算出した支払見込額を計上しております。

4．その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式を採用しております。

注記事項

（中間貸借対照表関係）

当中間会計期間末 (2019年9月30日)	
1 有形固定資産の減価償却累計額	11,331千円

(中間損益計算書関係)

当中間会計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	
1 減価償却実施額	
有形固定資産	2,003千円
無形固定資産	406千円

(中間株主資本等変動計算書関係)

当中間会計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 発行済株式数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当中間会計期間末
普通株式(株)	15,200	-	-	15,200

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年6月21日 定時株主総会	普通株式	304	20,000	2019年3月31日	2019年6月25日

(2) 基準日が当中間会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が中間会計期間後となるもの該当事項はありません。

(金融商品関係)

当中間会計期間末(2019年9月30日)

金融商品の時価等に関する事項

中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません(注2)をご参照ください)。

(単位:千円)

	中間貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金・預金	1,211,875	1,211,875	-
(2) 未収委託者報酬	761,496	761,496	-
(3) 未収運用受託報酬	72,736	72,736	-
(4) 未収投資助言報酬	23,476	23,476	-
(5) 投資有価証券	239,652	239,652	-
資産計	2,309,236	2,309,236	-
(6) 未払手数料	304,337	304,337	-
(7) 未払法人税等	172,462	172,462	-
負債計	476,800	476,800	-

(注1) 金融商品の時価の算定方法

資産

(1) 現金・預金、(2) 未収委託者報酬、(3) 未収運用受託報酬、(4) 未収投資助言報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(5) 投資有価証券

投資信託は基準価額によっております。

負債

(6)未払手数料、(7)未払法人税等

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の中間貸借対照表計上額
該当事項はありません。

(有価証券関係)

その他有価証券

当中間会計期間末(2019年9月30日)

種類	中間貸借対照表計上額 (千円)	取得価額 (千円)	差額 (千円)
中間貸借対照表計上額が 取得価額を超えるもの 証券投資信託	21,527	20,000	1,527
小計	21,527	20,000	1,527
中間貸借対照表計上額が 取得価額を超えないもの 証券投資信託	218,125	221,000	2,875
小計	218,125	221,000	2,875
合計	239,652	241,000	1,348

(セグメント情報等)

〔セグメント情報〕

当中間会計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

当社は、投信投資顧問業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

〔関連情報〕

当中間会計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1 サービスごとの情報

投信投資顧問業及び関連サービスに関する外部顧客への営業収益が、中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益が、中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所有している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客からの営業収益のうち、中間損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、主要な顧客ごとの営業収益の記載を省略しております。

〔報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報〕

該当事項はありません。

〔報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報〕

該当事項はありません。

〔報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報〕

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当中間会計期間 (2019年9月30日)
(1) 1株当たり純資産額 (算定上の基礎)	121,836円71銭
純資産の部の合計額(千円)	1,851,917
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	-
普通株式に係る中間期末の純資産額(千円)	1,851,917
普通株式の発行済株式総数(株)	15,200
普通株式の自己株式数(株)	-
1株当たり純資産額の算定に用いられた 中間期末の普通株式の数(株)	15,200

1株当たり中間純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当中間会計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
(2) 1株当たり中間純利益金額 (算定上の基礎)	24,365円11銭
中間純利益金額(千円)	370,349
普通株主に帰属しない金額(千円)	-
普通株式に係る中間純利益金額(千円)	370,349
普通株式の期中平均株式数(株)	15,200

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式は存在しないため、記載しておりません。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

- (1) 自己またはその取締役もしくは執行役との間における取引を行なうことを内容とした運用を行なうこと（投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。
- (2) 運用財産相互間において取引を行なうことを内容とした運用を行なうこと（投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。
- (3) 通常の見積りの条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下(4)、(5)において同じ。）または子法人等（委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。）と有価証券の売買その他の取引または金融デリバティブ取引を行なうこと。
- (4) 委託会社の親法人等または子法人等の利益を図るため、その行なう投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行なうことを内容とした運用を行なうこと。
- (5) 上記(3)、(4)に掲げるもののほか、委託会社の親法人等または子法人等が関与する行為であつ

て、投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

5【その他】

(1) 定款の変更

委託会社の定款の変更に関しては、株主総会の決議が必要です。

(2) 訴訟事件その他の重要事項

委託会社に重要な影響を与えた事実、または与えると予想される訴訟事件などは発生していません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

(1) 受託会社

名 称	資本金の額 (2019年9月末現在)	事業の内容
株式会社りそな銀行	279,928百万円	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

<再信託受託会社の概要>

名称 : 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社

資本金の額 : 51,000百万円(2019年9月末現在)

事業の内容 : 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

再信託の目的 : 原信託契約にかかる信託業務の一部(信託財産の管理)を原信託受託者から再信託受託者(日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社)へ委託するため、原信託財産のすべてを再信託受託者へ移管することを目的とします。

(2) 販売会社

名 称	資本金の額 (2019年9月末現在)	事業の内容
いちよし証券株式会社	14,577百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。

(3) 投資顧問会社

名 称	資本金の額 (2019年9月末現在)	事業の内容
いちよし証券株式会社	14,577百万円	資産運用に関する業務を営んでいます。

2【関係業務の概要】

(1) 受託会社

ファンドの信託財産に属する有価証券の管理・計算事務などを行ないます。

(2) 販売会社

日本におけるファンドの募集、解約、収益分配金および償還金の取扱いなどを行ないます。

(3) 投資顧問会社

資産配分および投資対象とする投資信託証券の組入れについての投資助言を行ないます。

3【資本関係】

(1) 受託会社

該当事項はありません。

(2) 販売会社

いちよし証券株式会社は、いちよしアセットマネジメント株式会社の発行済株式総数の100%を保有しております。（2019年11月末現在）

(3) 投資顧問会社

いちよし証券株式会社は、いちよしアセットマネジメント株式会社の発行済株式総数の100%を保有しております。（2019年11月末現在）

第3【その他】

(1) 目論見書の別称として「投資信託説明書（交付目論見書）」または「投資信託説明書（請求目論見書）」という名称を使用します。

(2) 目論見書の表紙、表紙裏または裏表紙に、以下を記載することがあります。

委託会社の金融商品取引業者登録番号および設立年月日

ファンドの基本的性格など

委託会社およびファンドのロゴ・マークや図案など

委託会社のホームページや携帯電話サイトのご案内など

目論見書の使用開始日

(3) 目論見書の表紙または表紙裏に、以下の趣旨の文章の全部または一部を記載することがあります。

投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではない旨。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはならない旨の記載。

投資信託は、元金および利回りが保証されているものではない旨の記載。

投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託を購入されたお客様が負う旨の記載。

「金融商品取引法第13条の規定に基づく目論見書である。」旨の記載。

「ご購入に際しては、目論見書の内容を十分にお読みください。」という趣旨の記載。

請求目論見書の入手方法（ホームページで閲覧、ダウンロードできるなど）についての記載。

請求目論見書は投資者の請求により販売会社から交付される旨および当該請求を行なった場合にはその旨の記録をしておくべきである旨の記載。

「約款が請求目論見書に掲載されている。」旨の記載。

商品内容に関して重大な変更を行なう場合には、投資信託及び投資法人に関する法律に基づき事前に受益者の意向を確認する旨の記載。

投資信託の財産は受託会社において信託法に基づき分別管理されている旨の記載。

有価証券届出書の効力発生およびその確認方法に関する記載。

委託会社の情報として記載することが望ましい事項と判断する事項がある場合は、当該事項の記載。

(4) 交付目論見書の投資リスクに、以下の趣旨の文章の全部または一部を記載することがあります。

ファンドの取引に関して、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用がない旨の記載。

投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではない旨。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはならない旨の記載。

(5) 交付目論見書に「ファンドの費用・税金」について、よりご理解を深めていただくための「ご案内」を記載することがあります。

(6) 有価証券届出書本文「第一部 証券情報」、「第二部 ファンド情報」に記載の内容について、投資者の理解を助けるため、当該内容を説明した図表などを付加して目論見書の当該内容に関連する箇所に記載することがあります。

(7) 目論見書に約款を掲載し、有価証券届出書本文「第二部 ファンド情報」中「第1 ファンドの状況」「2 投資方針」の詳細な内容につきましては、当該約款を参照する旨を記載することで、目論見書の内容の記載とすることがあります。

- (8) 投信評価機関、投信評価会社などによる評価を取得・使用する場合があります。
- (9) 目論見書は電子媒体などとして使用されるほか、インターネットなどに掲載されることがあります。

独立監査人の監査報告書

2019年6月21日

いちよしアセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 井上 正彦 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているいちよしアセットマネジメント株式会社の2018年4月1日から2019年3月31日までの第33期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、いちよしアセットマネジメント株式会社の2019年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注)1.上記は、独立監査人の監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2020年1月10日

いちよしアセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 井上正彦 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているいちよしファンドラップ専用投資信託 内外債券の2018年11月17日から2019年11月18日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、いちよしファンドラップ専用投資信託 内外債券の2019年11月18日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

いちよしアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注)1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

2019年12月19日

いちよしアセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 井上正彦 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているいちよしアセットマネジメント株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの第34期事業年度の中間会計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、いちよしアセットマネジメント株式会社の2019年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注)1.上記は、独立監査人の中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. X B R L データは中間監査の対象には含まれていません。